

2026年6月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

- 6月8日にフィリピン諸島、ミンダナオでモーメントマグニチュード (M_w) 7.7 の地震が発生し、父島二見（ふたみ）観測点で17 cm（暫定値）など、関東地方から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島及び小笠原諸島で津波を観測した。
- 6月16日に茨城県南部でマグニチュード (M) 5.5 の地震が発生した。この地震により群馬県、埼玉県で最大震度5弱を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。
- 6月25日に岩手県沖で M7.2 の地震が発生した。この地震により青森県で最大震度6強を観測し、負傷者が出るなど被害を生じた。また、北海道から東北地方にかけて長周期地震動階級2を観測した。
この地震により、岩手県の久慈港観測点（港湾局）で0.1 m（速報値）の津波を観測した。
また、6月28日にも M6.1 の地震が発生し、青森県、岩手県で最大震度5弱を観測した。
- 6月26日に山梨県東部・富士五湖で M5.6 の地震が発生した。この地震により山梨県で最大震度6弱を観測し、負傷者が出るなどの被害を生じた。

2. 各領域別の地震活動

（1）北海道地方

目立った活動はなかった。

（2）東北地方

- 6月25日に岩手県沖で発生した M7.2 の地震については、「2026年6月25日岩手県沖の地震の評価」を参照。

（3）関東・中部地方

- 6月1日に鳥島近海の深さ約 20 km（CMT 解による）で M6.0 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。
- 6月16日に茨城県南部の深さ約 50 km で M5.5 の地震が発生した。この地震の発震機構は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。
G N S S 観測によると、この地震に伴う有意な地殻変動は観測されていない。
- 6月26日に千葉県北東部の深さ約 55 km で M5.8 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した地震である。
- 6月26日に山梨県東部・富士五湖で発生した M5.6 の地震については、「2026年6月26日山梨県東部・富士五湖の地震の評価」を参照。

(4) 近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

目立った活動はなかった。

(6) 南海トラフ周辺

- 南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。

(7) その他の地域

- 6月8日にフィリピン諸島、ミンダナオで Mw7.7 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震により、父島二見（ふたみ）観測点で 17 cm（暫定値）など、関東地方から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島及び小笠原諸島で津波を観測した。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。

2026年6月の地震活動の評価についての補足説明

令和8年7月10日
地震調査委員会

1. 主な地震活動について

2026年6月の日本及びその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上及びM5.0以上の地震の発生は、それぞれ98回(5月は100回)及び13回(5月は13回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は3回(5月は1回)であった。

- (参考) M4.0以上の月回数 81回(69-104回)
(1998-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M5.0以上の月回数 10回(7-14回)
(1973-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の月回数 1回(0-2回)
(1919-2017年の月回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)
M6.0以上の年回数 16回(12-21回)
(1919-2017年の年回数の中央値、括弧の値は半数が入る範囲)

2025年6月以降2026年5月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあつた。

ー	トカラ列島近海	2025年6月30日	M5.3
ー	トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.1
ー	トカラ列島近海	2025年7月2日	M5.6
ー	トカラ列島近海	2025年7月3日	M5.5(深さ約10 km)
ー	トカラ列島近海	2025年7月5日	M5.4
ー	トカラ列島近海	2025年7月6日	M4.9
ー	トカラ列島近海	2025年7月6日	M5.5
ー	トカラ列島近海	2025年7月7日	M5.1
ー	ロシア、カムチャツカ半島東方沖		
		2025年7月30日	M8.8
ー	トカラ列島近海	2025年9月17日	M4.7
ー	根室半島南東沖	2025年10月25日	M5.8(深さ約40 km)
ー	三陸沖	2025年11月9日	M6.9(深さ約15 km)
ー	熊本県阿蘇地方	2025年11月25日	M5.8(深さ約10 km)
ー	青森県東方沖	2025年12月8日	M7.5(深さ約55 km)
ー	島根県東部	2026年1月6日	M6.4(深さ約10 km)
ー	茨城県南部	2026年4月1日	M5.0(深さ約50 km)
ー	長野県北部	2026年4月18日	M5.0(深さ約10 km)
ー	長野県北部	2026年4月18日	M5.1(深さ約10 km)
ー	三陸沖	2026年4月20日	M7.7(深さ約20 km)
ー	十勝地方南部	2026年4月27日	M6.2(深さ約85 km)
ー	宮城県沖	2026年5月15日	M6.4(深さ約45 km)
ー	沖縄本島近海	2026年5月20日	M5.9(深さ約50 km)

2. 各領域別の地震活動

(1) 北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

ー G N S S 観測によると、2022 年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されている。これは、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのフィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。すべりの中心は渥美半島周辺から浜名湖の東側に移動している。

(4) 近畿・中国・四国地方

ー 四国中部で6月7日から23日にかけて、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で深部低周波地震（微動）を観測している。ひずみ及び傾斜データによると、その周辺では深部低周波地震（微動）とほぼ同期してわずかな地殻変動を観測している。これらは、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界深部における短期的ゆっくりすべりに起因するものと考えられる。

ー 2025 年半ば頃から、山口県北部の地殻内の深さ 5 km 程度から 20 km 程度でまとまった微小地震活動が継続しており、これまでの最大規模の地震は6月16日のM3.1の地震（最大震度1）である。

この微小地震活動の周辺では、2025 年2月から、地殻下部の深さ 25 km から 30 km 程度でまとまった微小地震活動が継続している。これら一連の微小地震活動に伴って、わずかな地殻変動が観測されている。

(5) 九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

(6) 南海トラフ周辺

ー「南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていない。」：

（なお、これは、7月7日に開催された定例の南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会における見解（参考参照）と同様である。）

（参考）南海トラフ地震関連解説情報についてー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー（令和8年7月7日気象庁地震火山部）

「現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時（注）と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

（注）南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が高い（詳細は「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）」参照）と評価されており、昭和東南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況

(顕著な地震活動に関する現象)

南海トラフ周辺では、特に目立った地震活動はありませんでした。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

- (1) 四国中部：6月7日から6月23日
- (2) 紀伊半島北部：6月11日から6月17日
- (3) 東海：6月25日から6月26日

2. 地殻変動の観測状況

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震（微動）とはほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しました。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られました。

GNS観測によると、2022年初頭から、静岡県西部から愛知県東部にかけて、それまでの傾向とは異なる地殻変動が観測されています。

(長期的な地殻変動)

GNS観測等によると、御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺では長期的な沈降傾向が継続しています。

3. 地殻活動の評価

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)から(3)の深部低周波地震（微動）と地殻変動は、想定震源域のプレート境界深部において発生した短期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。

2022年初頭からの静岡県西部から愛知県東部にかけての地殻変動は、渥美半島周辺から浜名湖周辺にかけてのプレート境界深部における長期的ゆっくりすべりに起因するものと推定しています。この長期的ゆっくりすべりは、すべりの中心が渥美半島周辺から、浜名湖の東側に移動しています。

これらの深部低周波地震（微動）、短期的ゆっくりすべり、及び長期的ゆっくりすべりは、それぞれ、従来からも繰り返し観測されてきた現象です。

(長期的な地殻変動)

御前崎、潮岬及び室戸岬のそれぞれの周辺で見られる長期的な沈降傾向はフィリピン海プレートの沈み込みに伴うもので、その傾向に大きな変化はありません。

上記観測結果を総合的に判断すると、南海トラフ地震の想定震源域ではプレート境界の固着状況に特段の変化を示すようなデータは得られておらず、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。」

参考1 「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安

- ① M6.0以上または最大震度が4以上のもの。②内陸M4.5以上かつ最大震度が3以上のもの。
- ③海域M5.0以上かつ最大震度が3以上のもの。

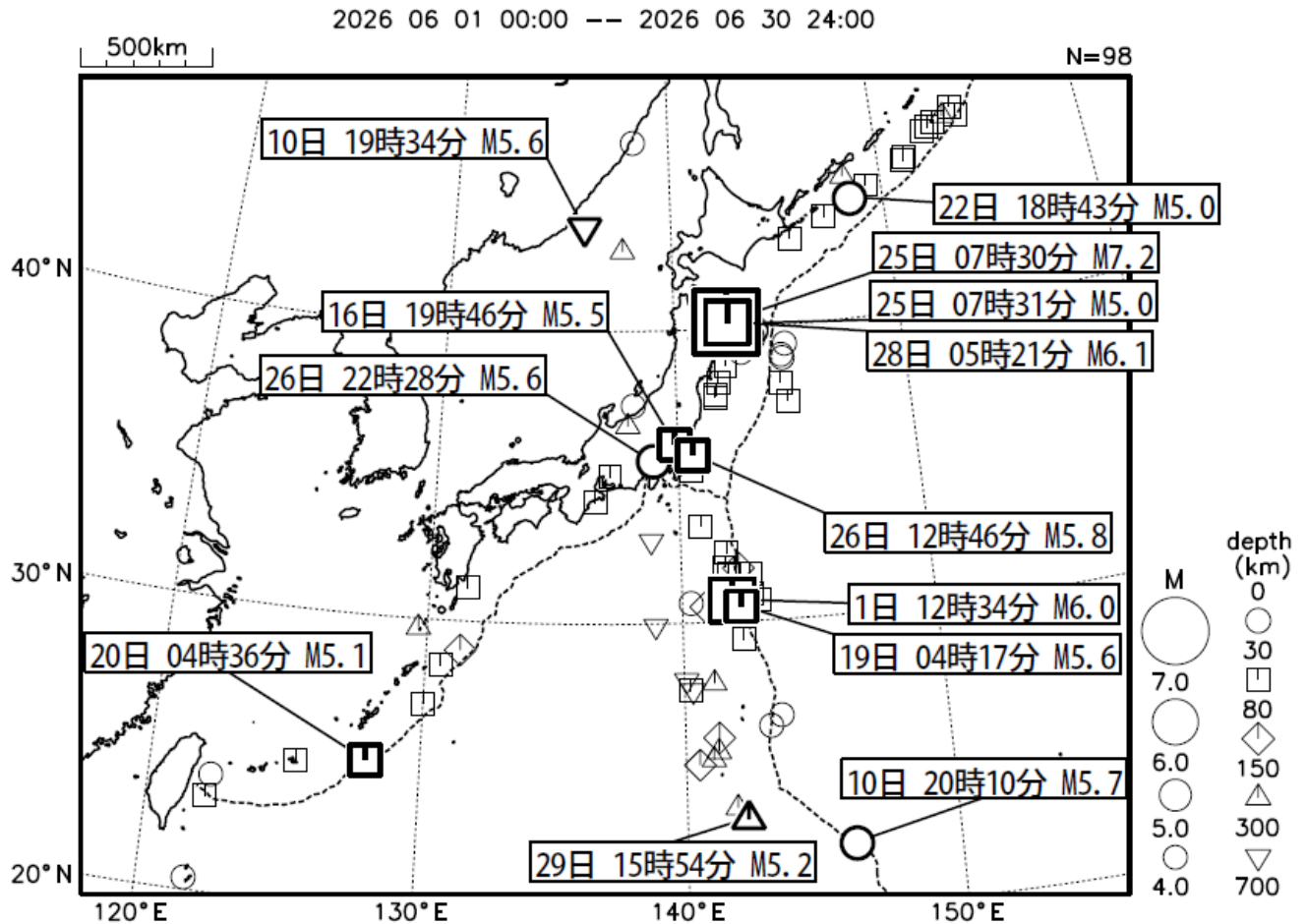
参考2 「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安

- 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
- 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
- 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

4 一連で M6.0 以上が推定されたゆっくりすべりとそれに伴って発生した低周波地震(微動)。

2026 年 6 月の地震活動の評価に関する資料

2026 年 6 月の全国の地震活動 (マグニチュード 4.0 以上)



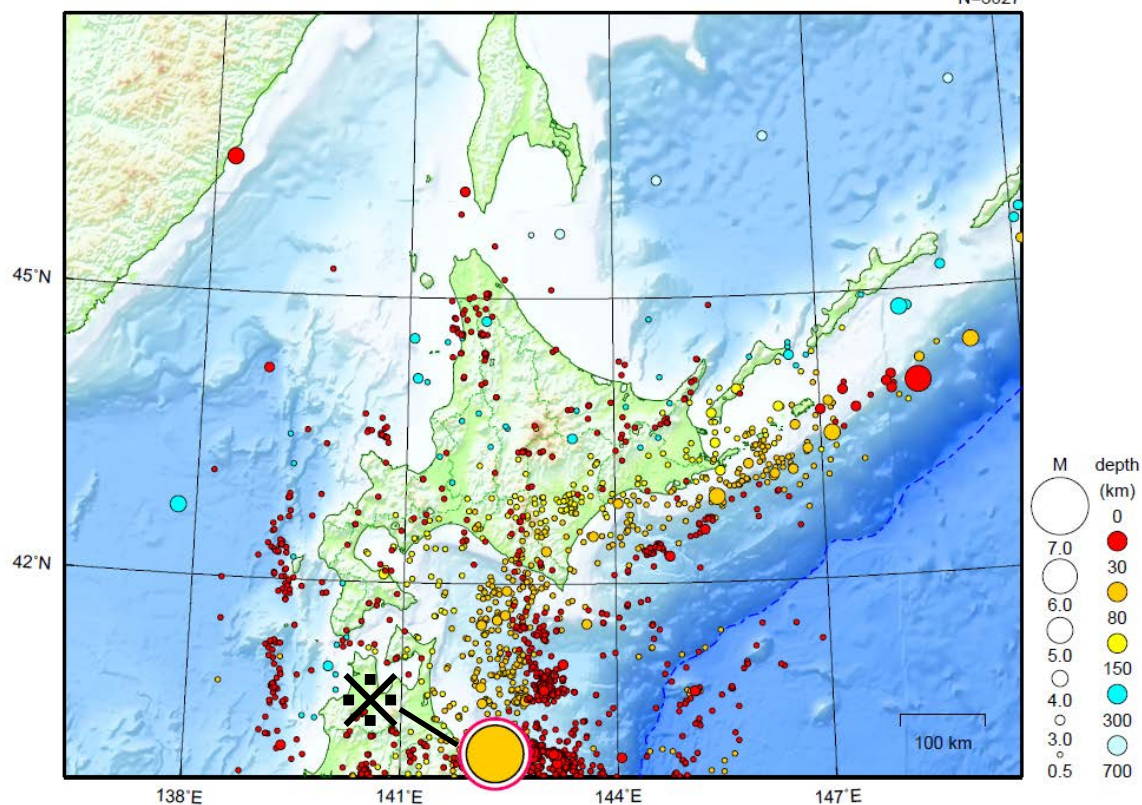
- ・ 6 月 1 日 12 時 34 分に鳥島近海で M6.0 の地震（震度 1 以上を観測した地点はなし）が発生した。
- ・ 6 月 16 日 19 時 46 分に茨城県南部で M5.5 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。
- ・ 6 月 25 日 07 時 30 分に岩手県沖で M7.2 の地震（最大震度 6 強）が発生した。
- ・ 6 月 26 日 22 時 28 分に山梨県東部・富士五湖で M5.6 の地震（最大震度 6 弱）が発生した。
- ・ 6 月 28 日 05 時 21 分に岩手県沖で M6.1 の地震（最大震度 5 弱）が発生した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2026/06/01 00:00 ~ 2026/06/30 24:00

N=3627



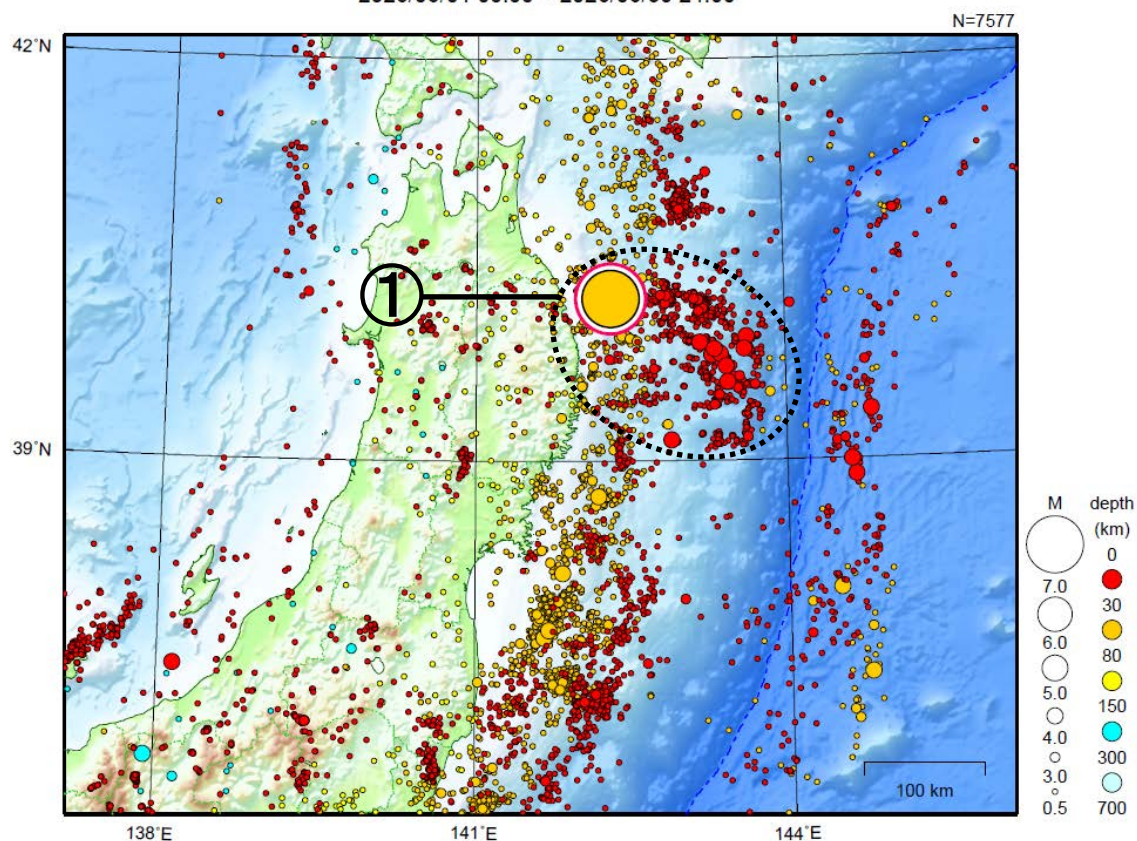
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

※で示した地震については東北地方の資料を参照。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

東北地方

2026/06/01 00:00 ~ 2026/06/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

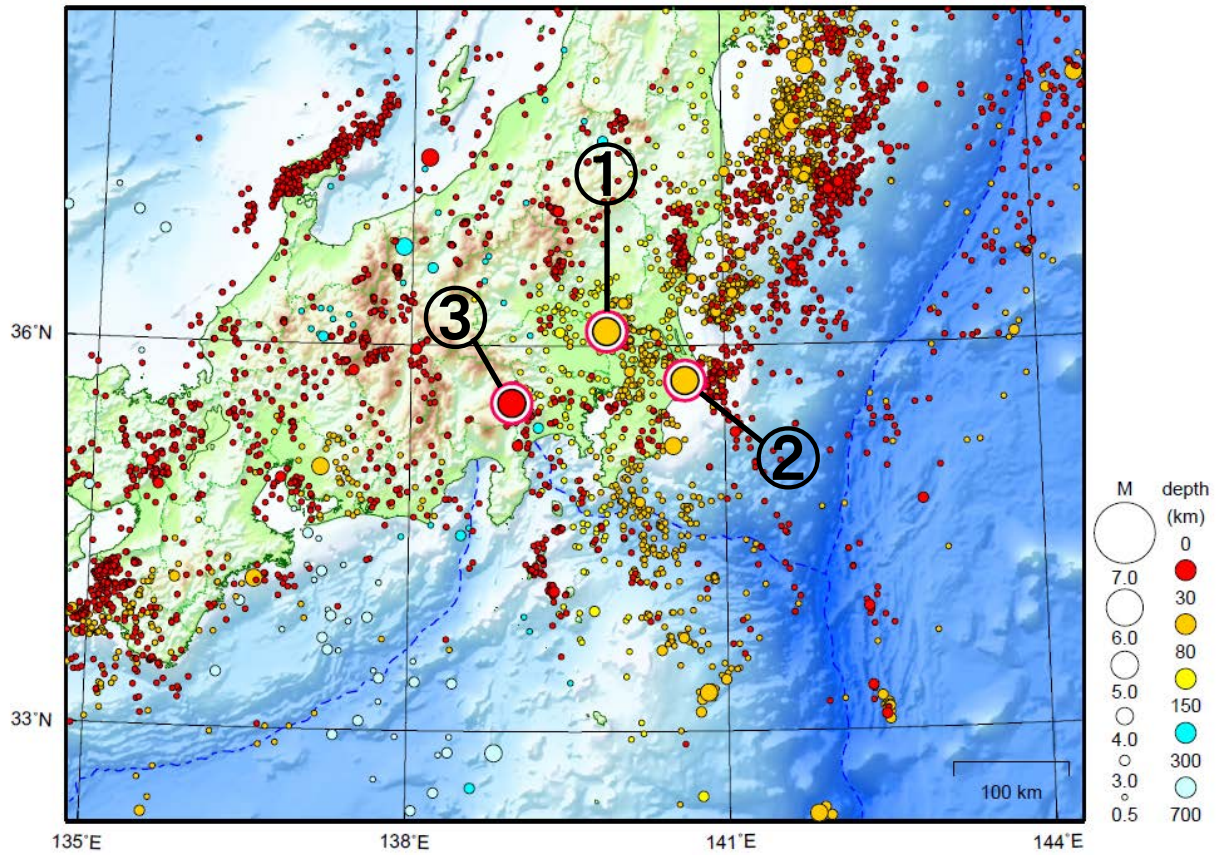
- ① 岩手県沖では、6月25日07時30分にM7.2の地震(最大震度6強)、同日20時58分にM4.8の地震(最大震度4)、6月28日にM6.1の地震(最大震度5弱)が発生した。2025年11月からの三陸沖から岩手県沖にかけての地震活動域では、6月中に震度1以上を観測した地震が27回(震度6強：1回、震度5弱：1回、震度4：1回、震度3：2回、震度2：3回、震度1：19回)発生した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

関東・中部地方

2026/06/01 00:00 ~ 2026/06/30 24:00

N=5918



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- ① 6月16日に茨城県南部でM5.5の地震(最大震度5弱)が発生した。
- ② 6月26日に千葉県北東部でM5.8の地震(最大震度4)が発生した。
- ③ 6月26日に山梨県東部・富士五湖でM5.6の地震(最大震度6弱)が発生した。

(図の範囲外)

6月1日に鳥島近海でM6.0の地震(震度1以上を観測した地点はなし)が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

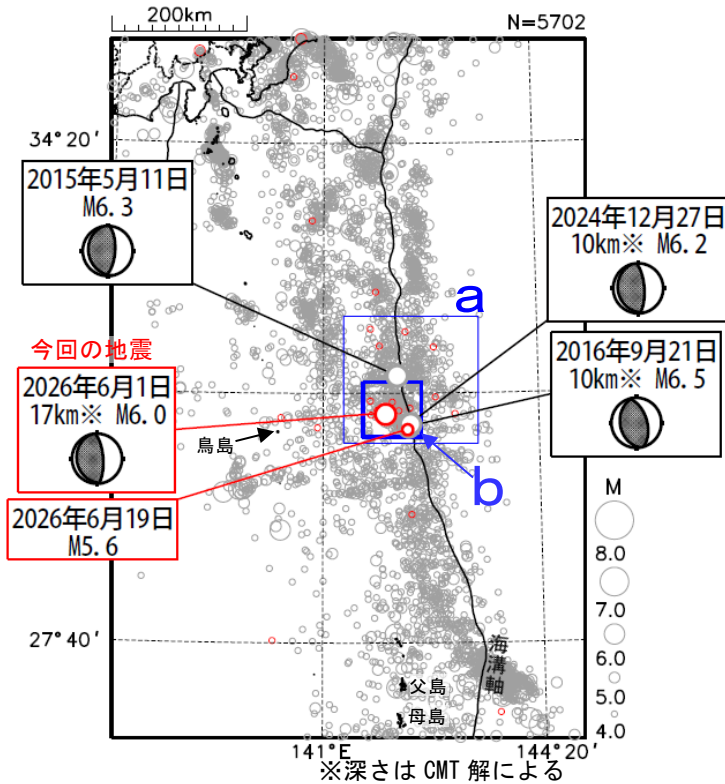
6月1日 鳥島近海の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2026年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 4.0$)

2026年6月の地震を赤く表示

図中の発震機構はCMT解

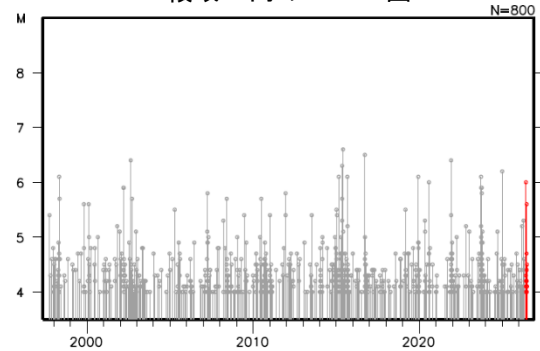


2026年6月1日12時34分に鳥島近海の深さ17km (CMT解による) でM6.0の地震 (震度1以上を観測した地点はなし) が発生した。この地震の発震機構 (CMT解) は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

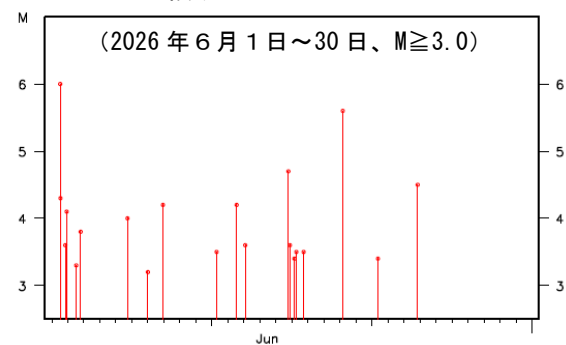
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域a) では、M6.0以上の地震が時々発生している。2016年9月21日にはM6.5の地震 (最大震度1) が発生した。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。

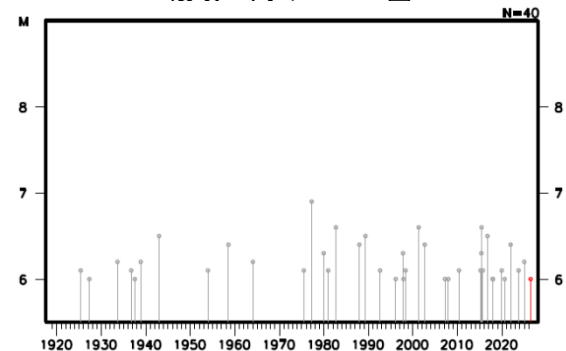
領域a内のM-T図



領域b内のM-T図



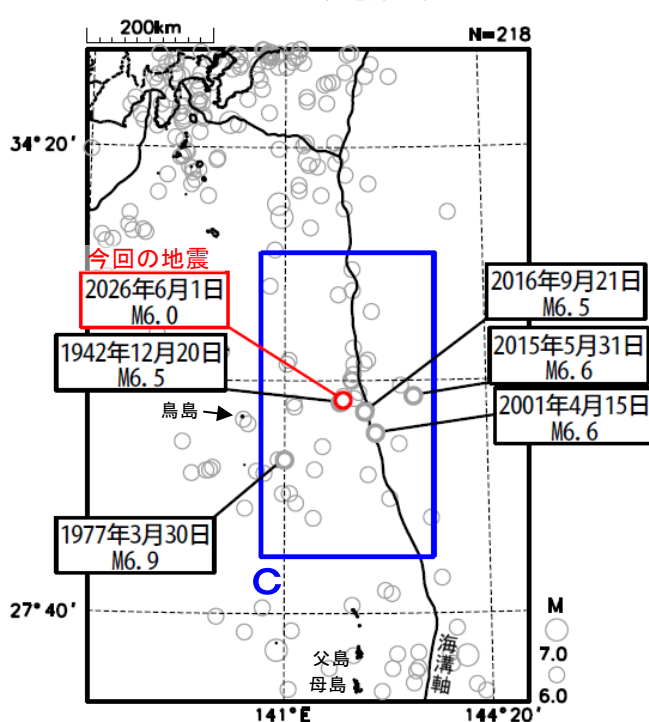
領域c内のM-T図



震央分布図

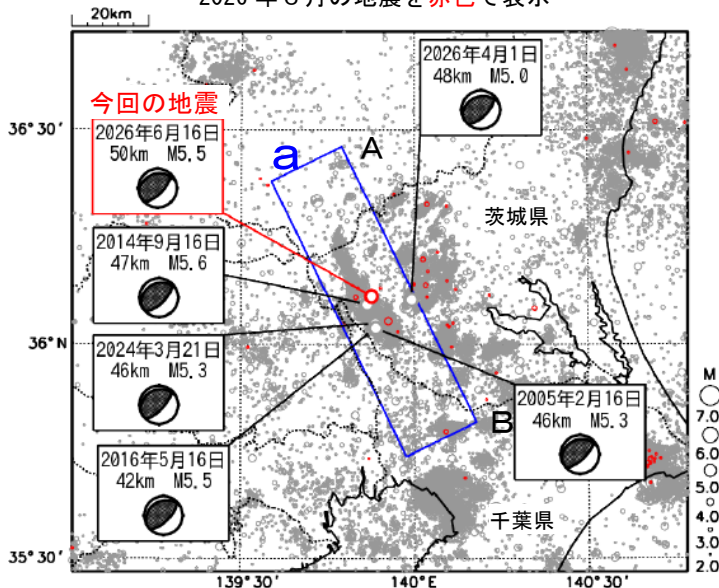
(1919年1月1日～2026年6月30日、
深さ0～400km、 $M \geq 6.0$)

2026年6月の地震を赤く表示

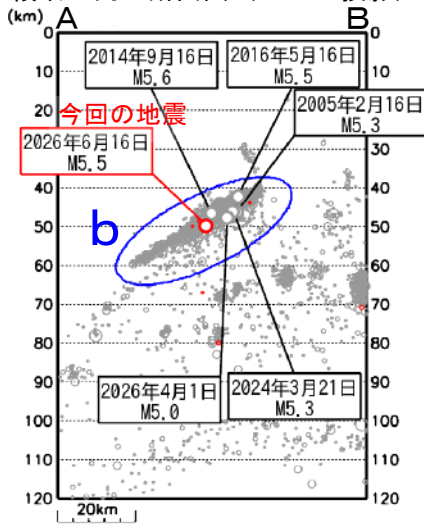


6月16日 茨城県南部の地震

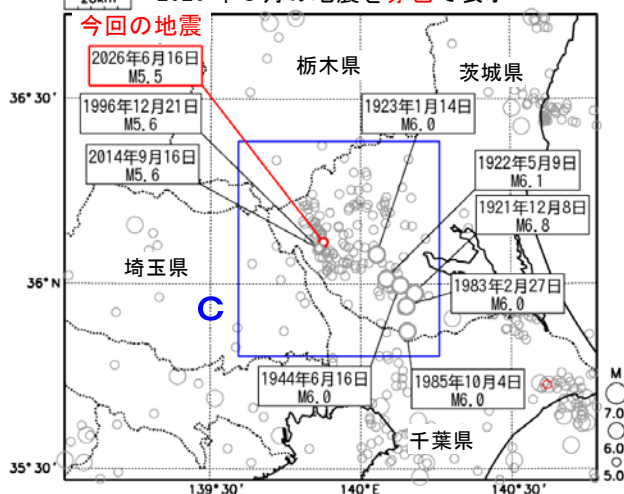
震央分布図
(1997年10月1日～2026年6月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)
2026年6月の地震を赤色で表示



領域a内の断面図（A－B投影）



震央分布図
(1919年1月1日～2026年6月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)
2026年6月の地震を赤色で表示

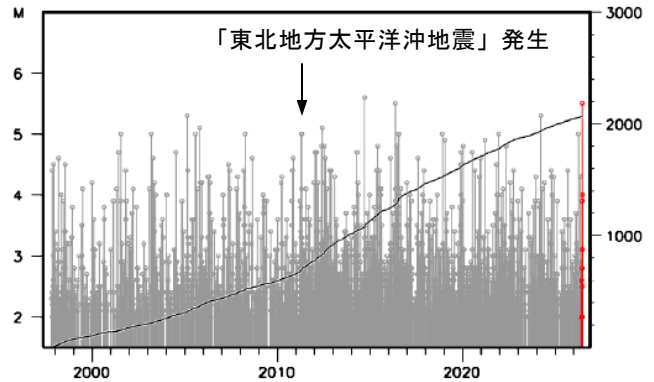


2026年6月16日19時46分に茨城県南部の深さ50kmでM5.5の地震（最大震度5弱）が発生した。この地震は、発震機構が北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震で、負傷者2人、住家一部破損20棟の被害が生じた（被害は、6月24日14時00分現在、総務省消防庁による）。

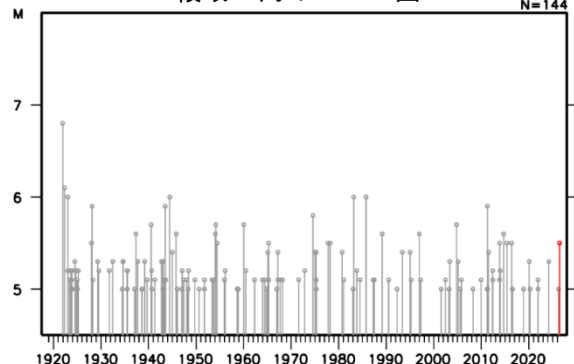
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）はM5以上の地震が時々発生しており、「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）発生以降は、より地震活動が活発になっている。2014年9月16日にはM5.6の地震（最大震度5弱）が発生し、負傷者9人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が時々発生している。また、1996年12月21日の地震（M5.6、最大震度5弱）、2014年9月16日の地震（M5.6、最大震度5弱）と、今回の地震と同程度の規模の地震がほぼ同じ場所で発生している。

領域b内のM－T図及び回数積算図



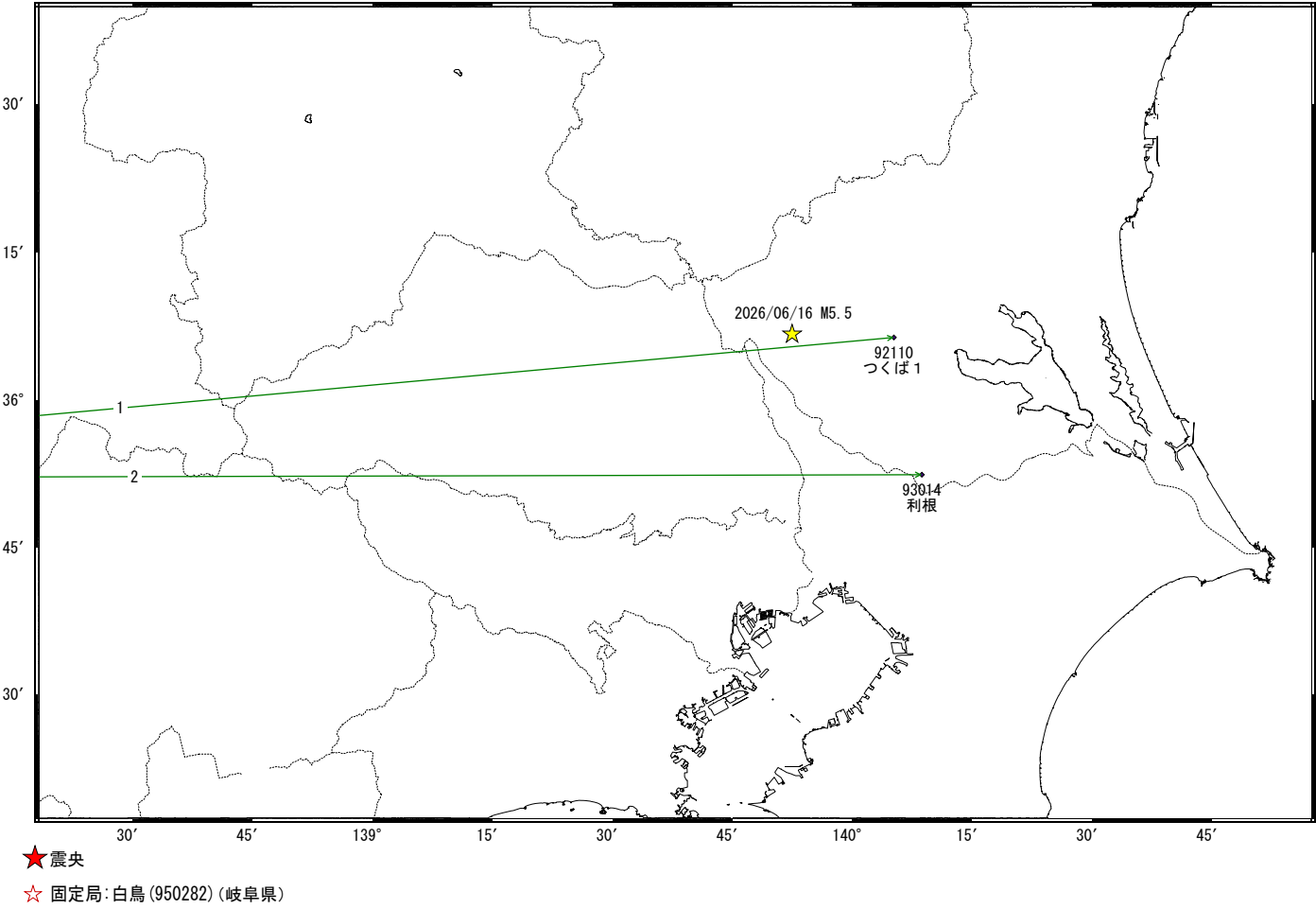
領域c内のM－T図



茨城県南部の地震(6月16日 M5.5)前後の観測データ(暫定)

この地震に伴う顕著な地殻変動は見られない。

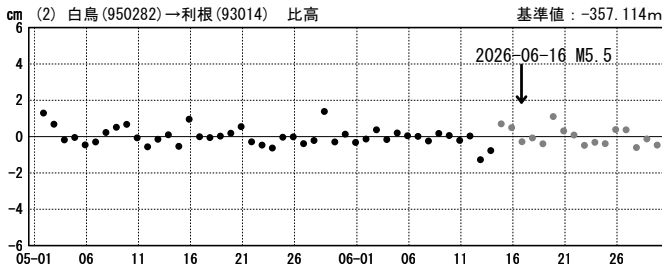
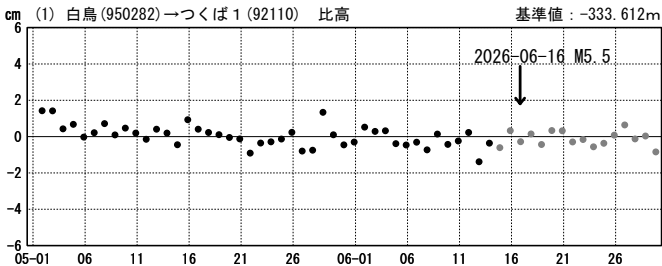
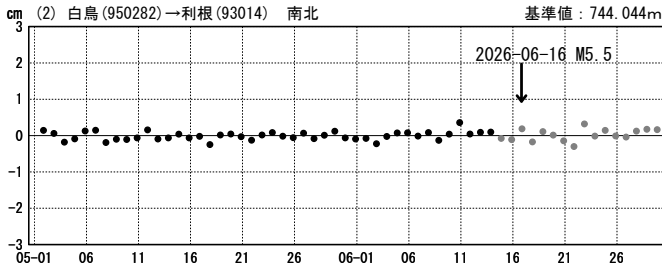
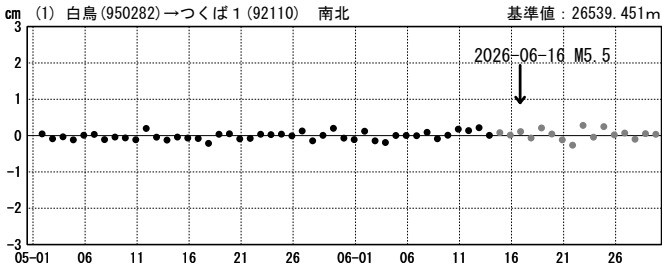
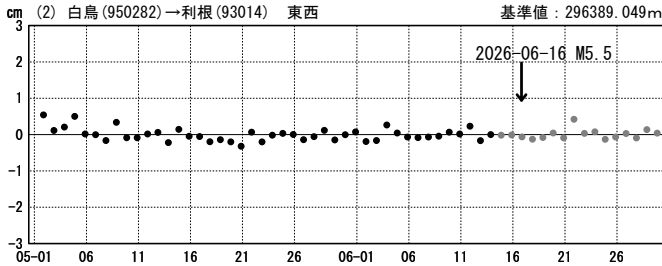
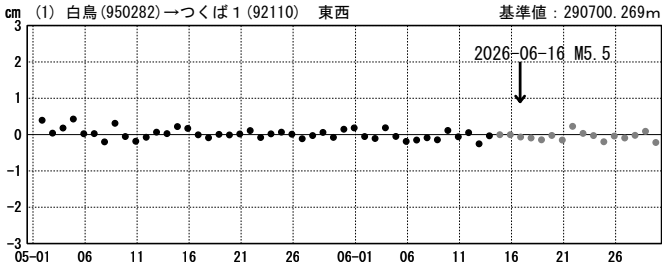
基線図



成分変化グラフ

期間：2026-05-01～2026-06-29 JST

期間：2026-05-01～2026-06-29 JST



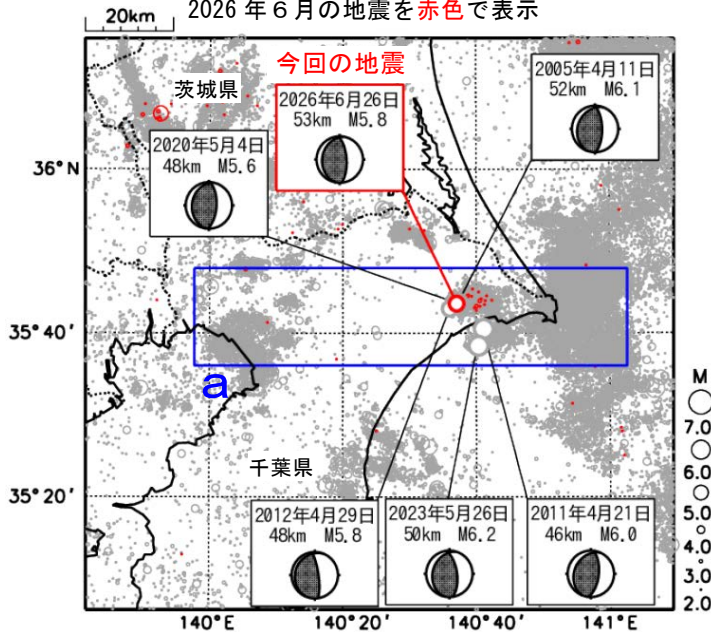
●—[F5. 1:最終解] ●—[R5. 1:速報解]

6月26日 千葉県北東部の地震

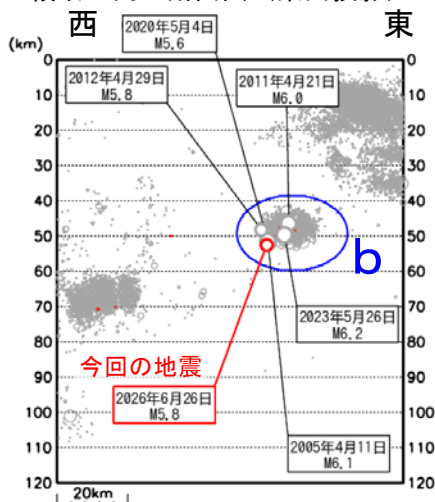
震央分布図

(2002年10月1日～2026年6月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 2.0$)

2026年6月の地震を赤色で表示



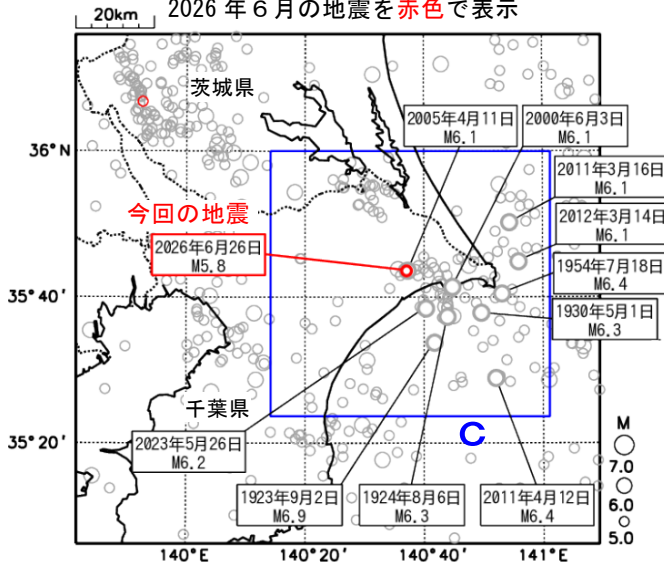
領域a内の断面図 (東西投影)



震央分布図

(1919年1月1日～2026年6月30日、
深さ0～120km、 $M \geq 5.0$)

2026年6月の地震を赤色で表示

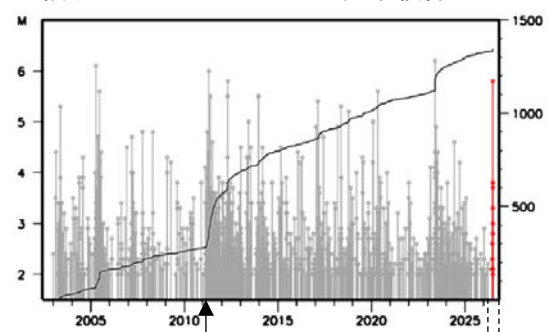


2026年6月26日12時46分に千葉県北東部の深さ53kmで $M 5.8$ の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

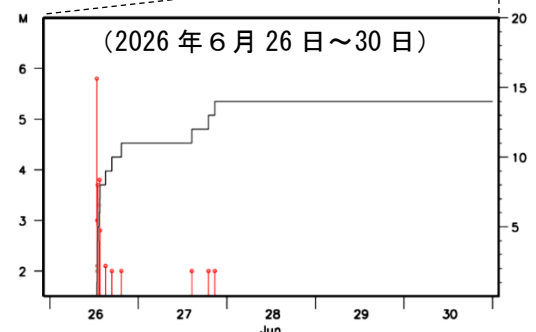
2002年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は $M 5$ 以上の地震が時々発生しており、「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」 (以下、「東北地方太平洋沖地震」) 発生以降、より活発になっている。2005年4月11日には $M 6.1$ の地震 (最大震度5強) が発生し、負傷者1人などの被害が生じた (被害は総務庁消防庁による)。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。

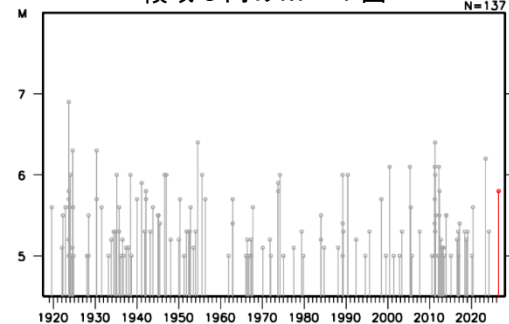
領域b内のM-T図及び回数積算図



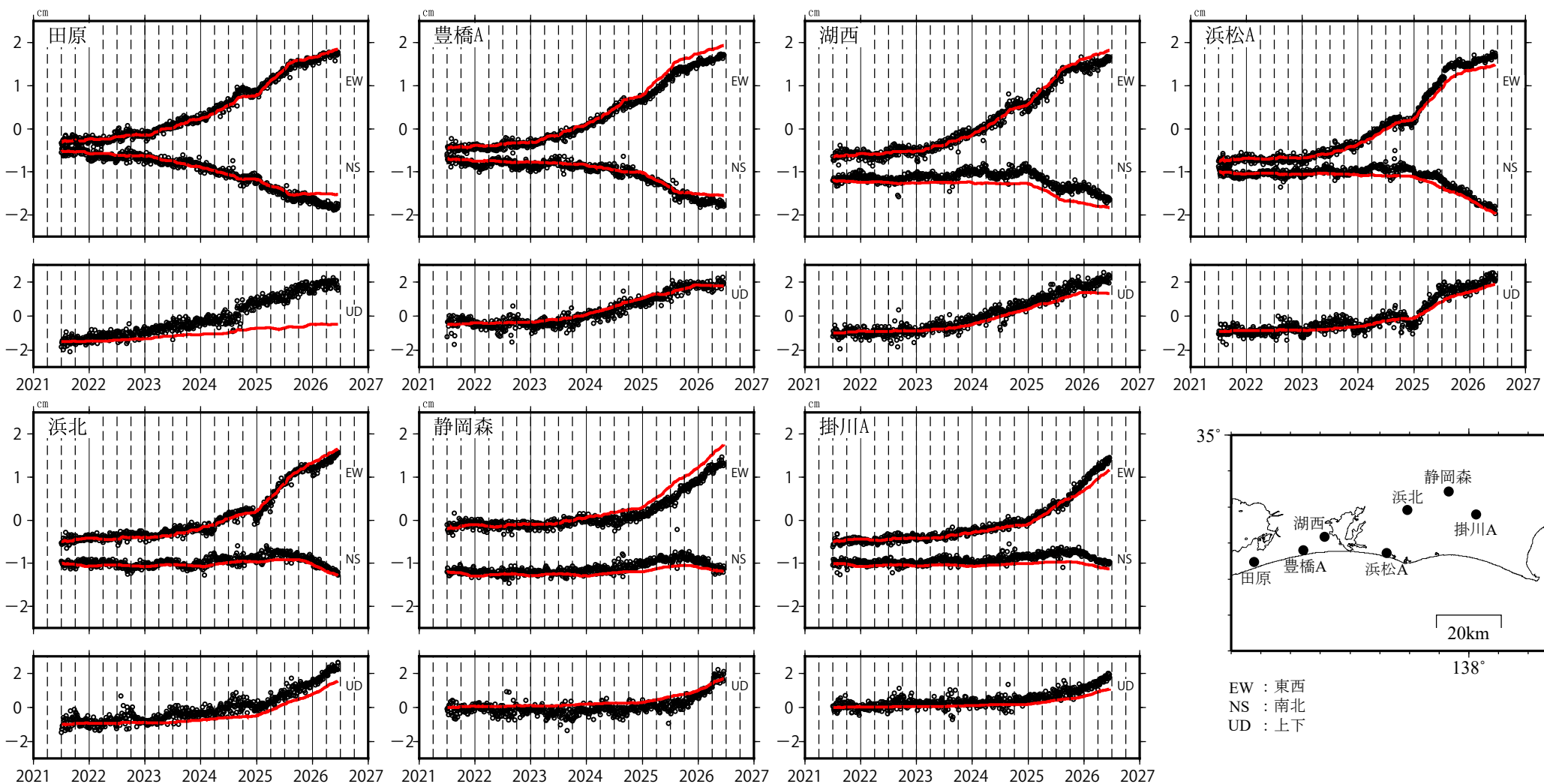
「東北地方太平洋沖地震」発生



領域c内のM-T図

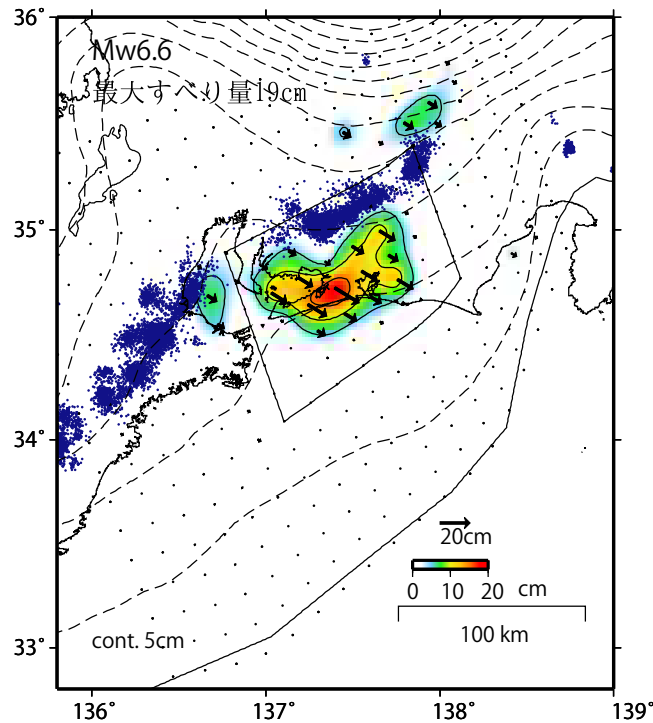


東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線) 時間依存のインバージョン

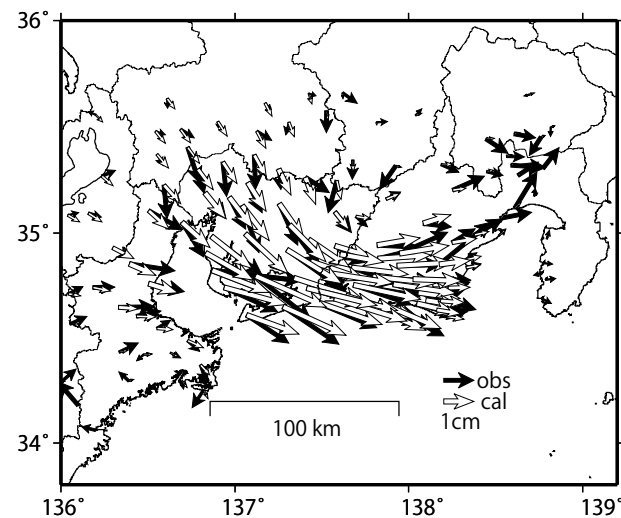


GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり(暫定)

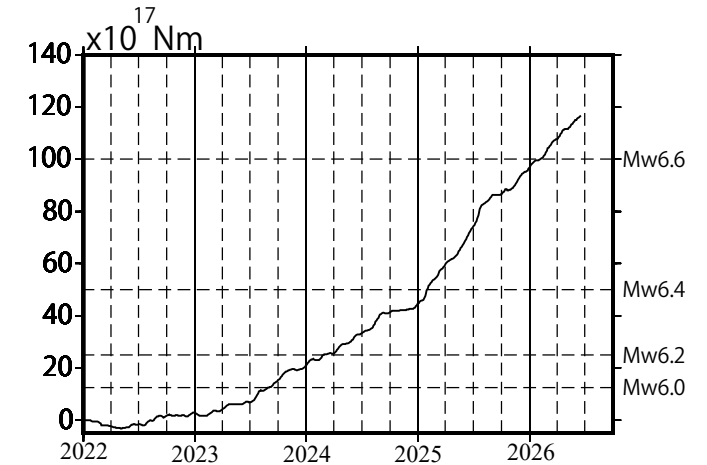
推定すべり分布
(2022-01-01/2026-06-18)



観測値(黒)と計算値(白)の比較
(2022-01-01/2026-06-18)



モーメント時系列(試算)



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量(カラー)及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差(σ)の3倍以上のグリッドを黒色で示している。

使用データ: GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)

F5.1解(2021-07-01/2026-05-30) R5.1解(2026-05-31/2026-06-18)

トレンド期間: 2020-01-01/2022-01-01 (年周・半年周成分は補正していない)

モーメント計算範囲: 左図の黒枠内側

観測値: 3日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値

黒破線: フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al., 2008)

すべり方向: プレートの沈み込み方向に拘束

青丸: 低周波地震(気象庁一元化震源)(期間: 2022-01-01/2026-06-18)

モーメント: 断層運動のエネルギーの目安となる量。

解析での補正内容

- * 電子基準点の保守等による変動
- * 共通誤差成分を推定
- * 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
- * 令和6年能登半島地震に伴う地殻変動
- * 令和6年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
- * 短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動(2017-01/2026-05-24: 気象庁カタログによる)

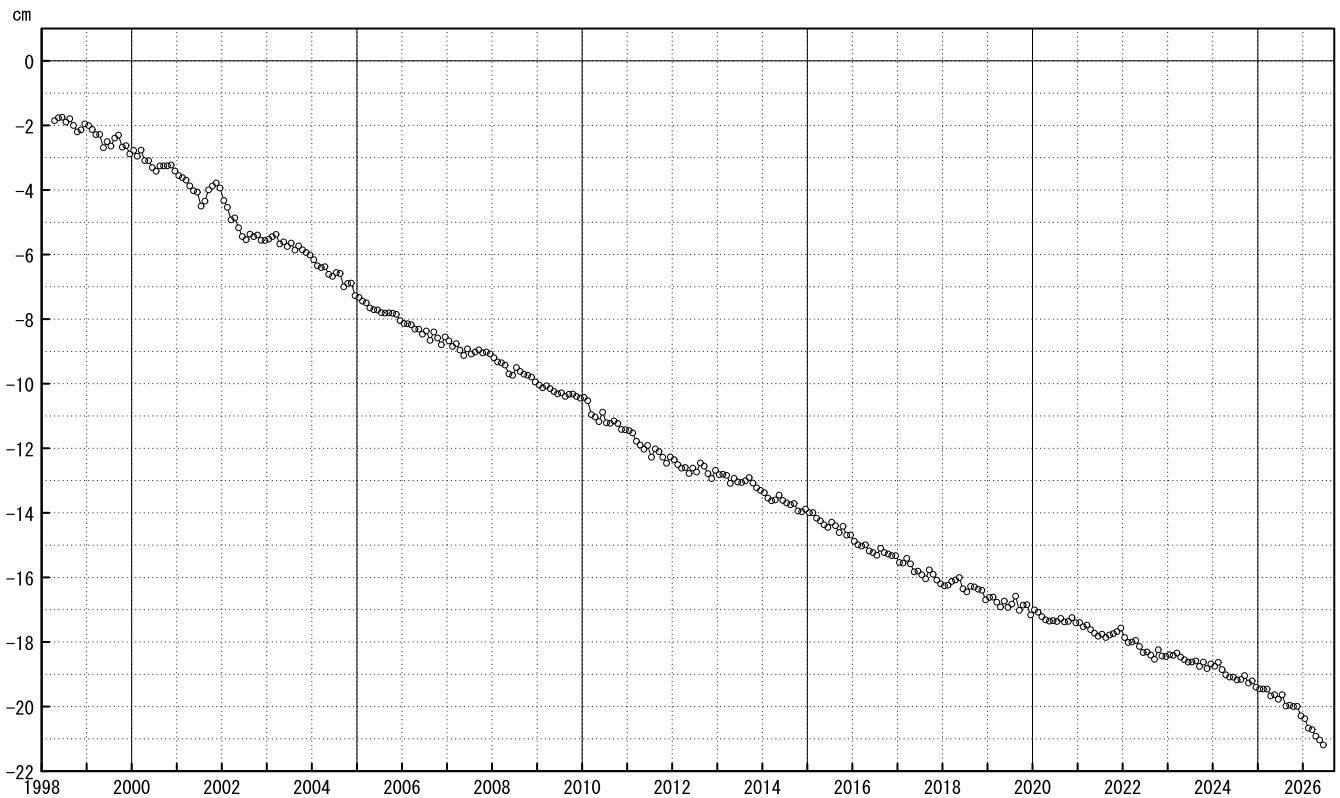
固定局: 三隅

御前崎 電子基準点の上下変動

水準測量と GNSS 連続観測

掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)

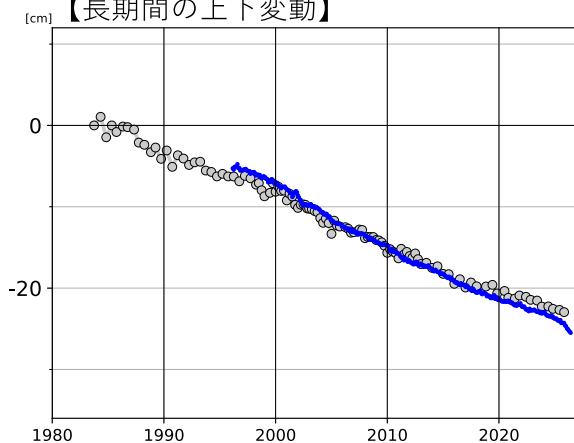


○：GNSS 連続観測（GEONET 月平均値）

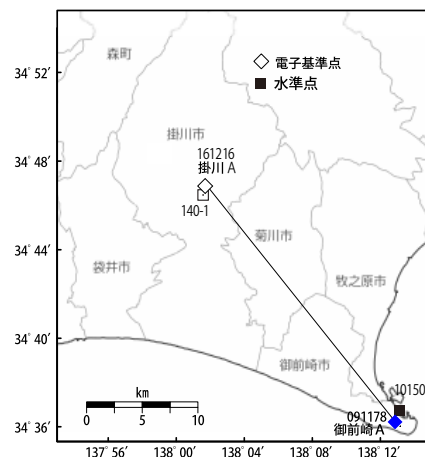
・ GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5.1：最終解）から計算した値の月平均値。最新のプロット点は 6 月 1 日～6 月 6 日の平均。

- ※ 1 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震に伴う電子基準点「御前崎」の局所的な変動について、地震前後の水準測量で得られた「御前崎」周辺の水準点との比高の差を用いて補正を行った。
- ※ 2 電子基準点「御前崎 A」については、2010 年 3 月 23 日まで電子基準点「御前崎」のデータを使用。
- ※ 3 電子基準点「掛川 A」については、2017 年 1 月 29 日まで電子基準点「掛川」のデータを使用。
- ※ 4 2026 年初頭頃から見られる沈降速度の増加は、東海地方の長期的ゆっくりすべりのすべりの中心が浜名湖の東側へ移動していることに伴う電子基準点「掛川 A」等での変動の影響によるものである。

【長期間の上下変動】



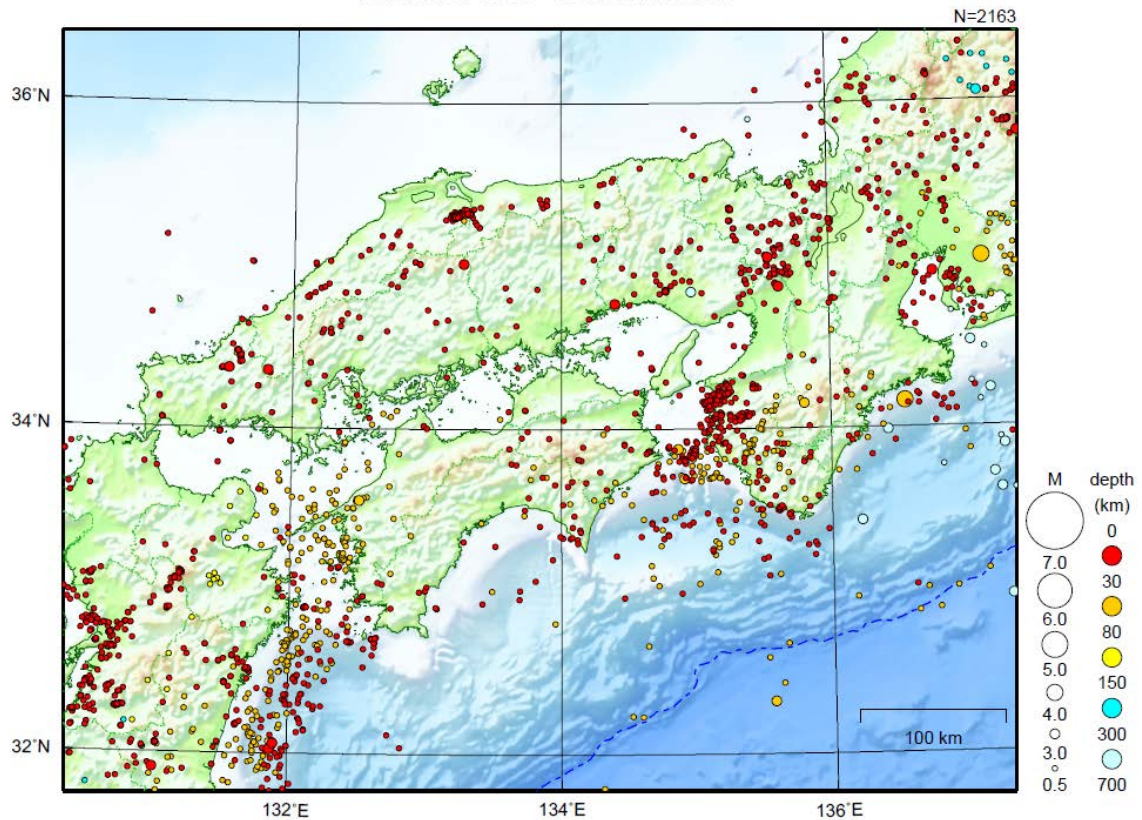
「固定局：掛川 A (161216)」



- ・ 青色のプロットは上記の GEONET による日々の座標値の月平均値。
- ・ 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点「10150」の水準測量結果を示している（固定：140-1）。

近畿・中国・四国地方

2026/06/01 00:00 ~ 2026/06/30 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

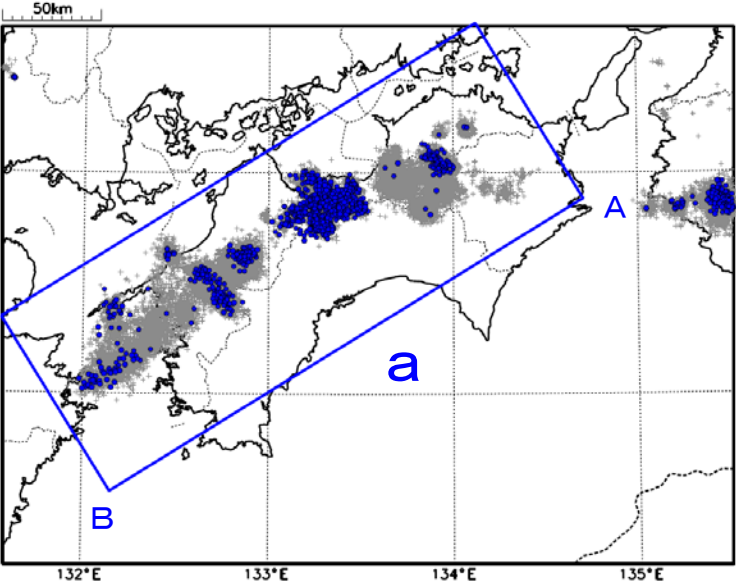
四国中部の深部低周波地震(微動)活動と短期的ゆっくりすべり

6月7日から6月23日にかけて、四国中部で深部低周波地震(微動)を観測した。

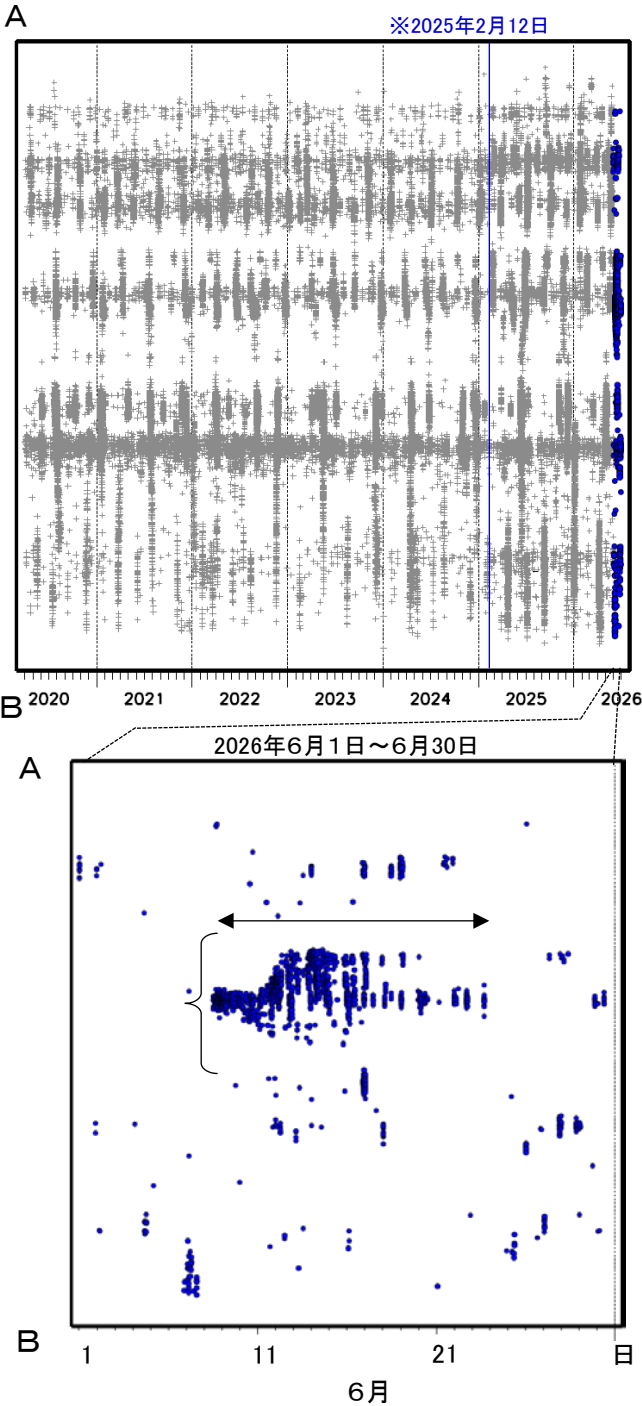
深部低周波地震(微動)活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計・傾斜計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震(微動)活動

震央分布図(2020年4月1日～2026年6月30日、
深さ0～60km、Mすべて)
灰: 2020年4月1日～2026年5月31日、
青: 2026年6月1日以降



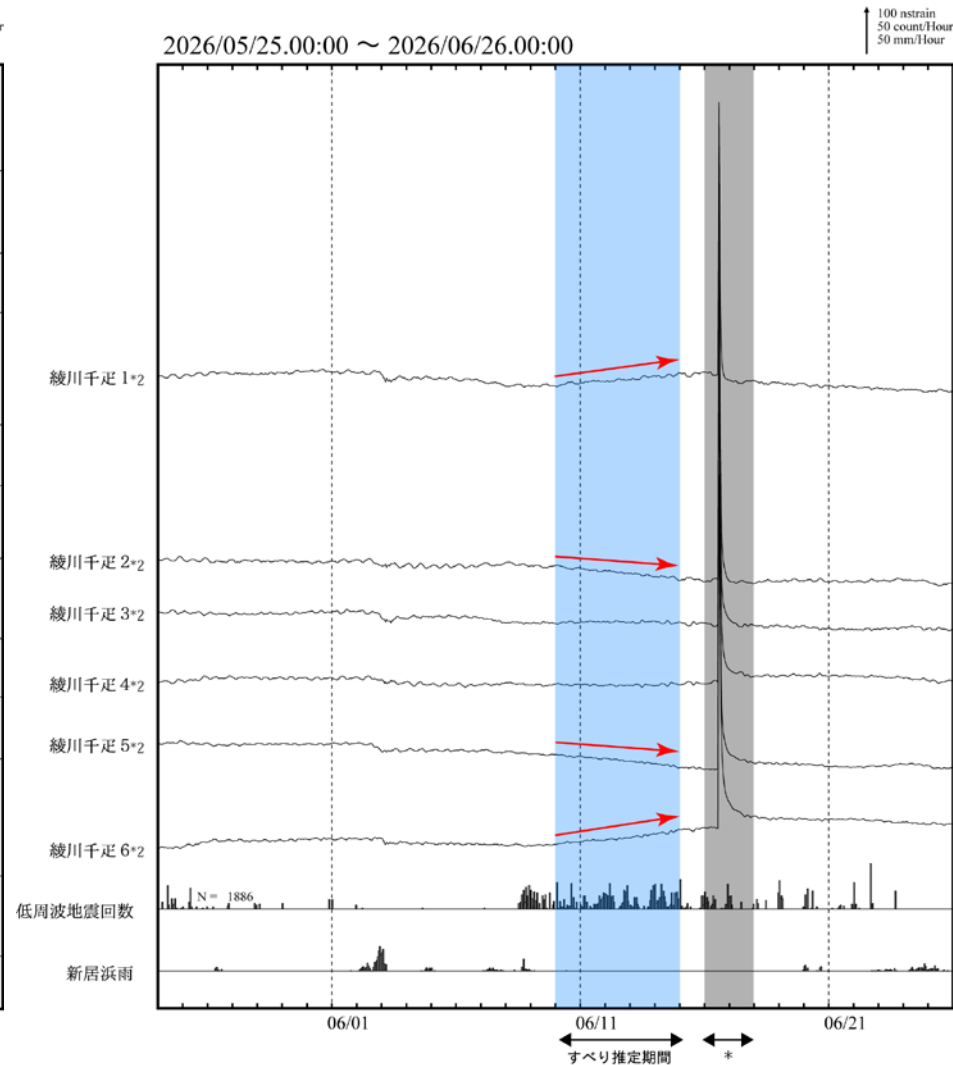
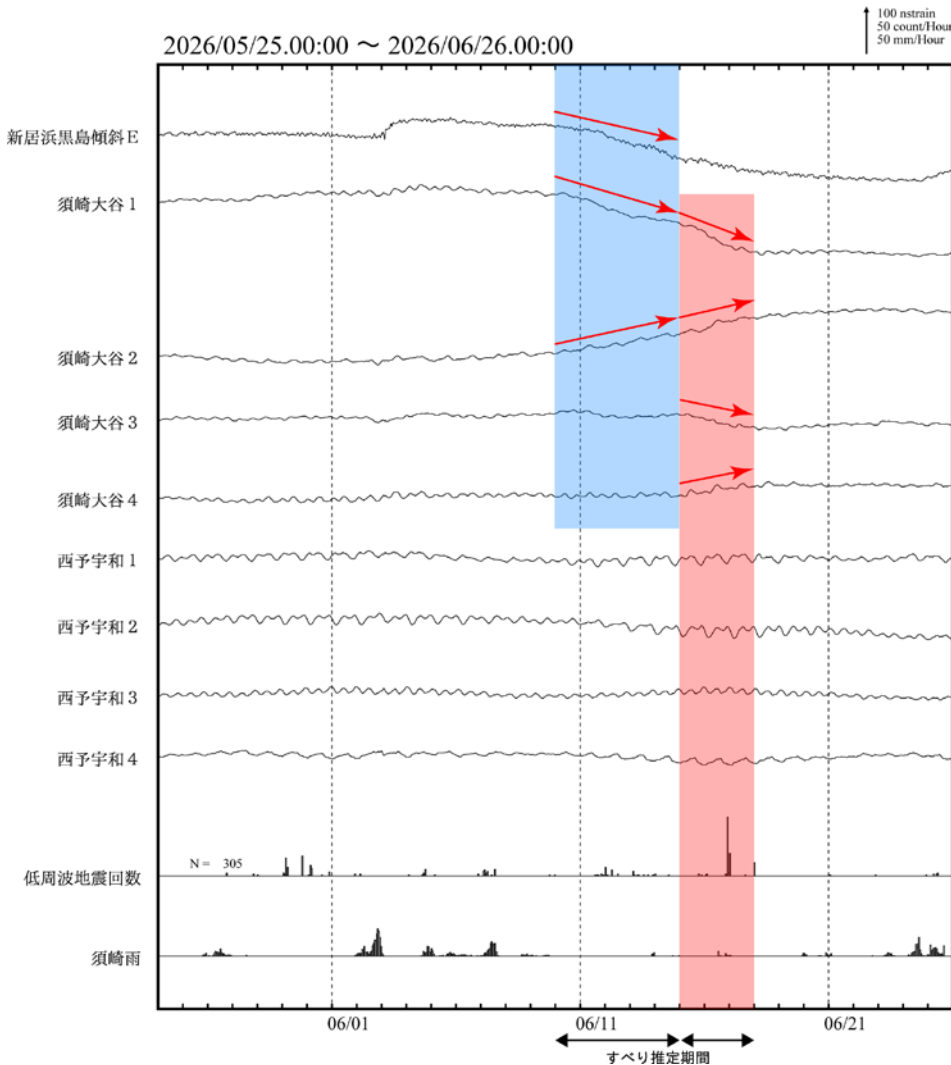
領域a内の時空間分布図(A-B投影)



※2025年2月12日から、深部低周波地震(微動)の検知手法の改善により、それ以前と比較して検知能力が変わっている。

四国中部で観測した短期的ゆっくりすべり(6月10日～17日)

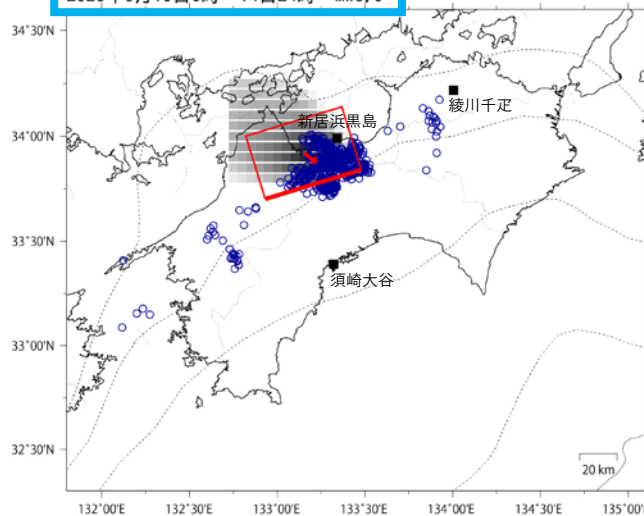
高知県から香川県で観測されたひずみ・傾斜変化



西予宇和、新居浜黒島、須崎大谷及び綾川千疋は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。
 解析に使用したチャンネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャンネルに赤矢印を描画している。
 低周波地震回数はゆっくりすべりを示す断層モデル周辺で発生したものを積算している。
 *の期間に作業による波形変化が見られる。

四国中部で観測した短期的ゆっくりすべり(6月10日～17日)

2026年6月10日0時～14日24時 Mw6.0



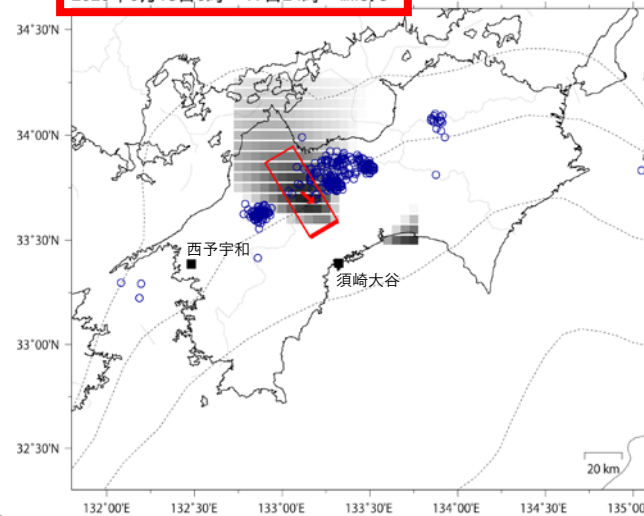
Lat:33.92° Lon:133.15° Depth:39.87km Strike:253° Dip:7° Rake:127°
Length:52.8km Width:35.1km Slip:15.00mm Mw:5.96 R^2 :0.921

R^2 1.0
0.9
0.8
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0.0

第1段階のグリッド
サーチによる決定
係数の分布
(1に近いほど観測
値を良く説明する)

■ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/06/10.00h-2026/06/14.24h)

2026年6月15日0時～17日24時 Mw5.5



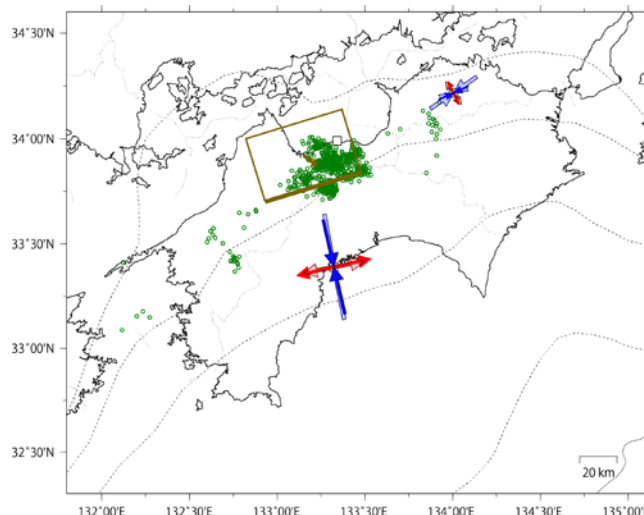
Lat:33.73° Lon:133.11° Depth:24.00km Strike:239° Dip:10° Rake:107°
Length:17.0km Width:46.6km Slip:6.30mm Mw:5.47 R^2 :0.940

R^2 1.0
0.9
0.8
0.7
0.6
0.5
0.4
0.3
0.2
0.1
0.0

第1段階のグリッド
サーチによる決定
係数の分布
(1に近いほど観測
値を良く説明する)

■ 解析使用観測点
□ 推定された断層モデル
○ 低周波地震の震央
(2026/06/15.00h-2026/06/17.24h)

参考



観測値 1e-08 [strain]

→ 伸び

← 縮み

○ 伸び

○ 縮み

理論値 1e-08 [strain]

→ 伸び

← 縮み

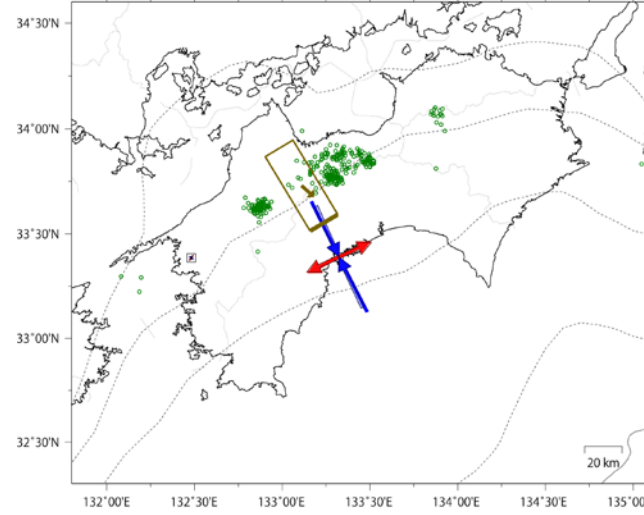
○ 伸び

○ 縮み

■ 解析使用観測点

□ 推定された断層モデル

○ 低周波地震の震央
(2026/06/10.00h-2026/06/14.24h)



観測値 1e-08 [strain]

→ 伸び

← 縮み

○ 伸び

○ 縮み

理論値 1e-08 [strain]

→ 伸び

← 縮み

○ 伸び

○ 縮み

■ 解析使用観測点

□ 推定された断層モデル

○ 低周波地震の震央
(2026/06/15.00h-2026/06/17.24h)

前頁に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法(板場ほか, 2012)を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

● 6 月 8 ～ 17 日頃に四国中部において、活発な微動活動。

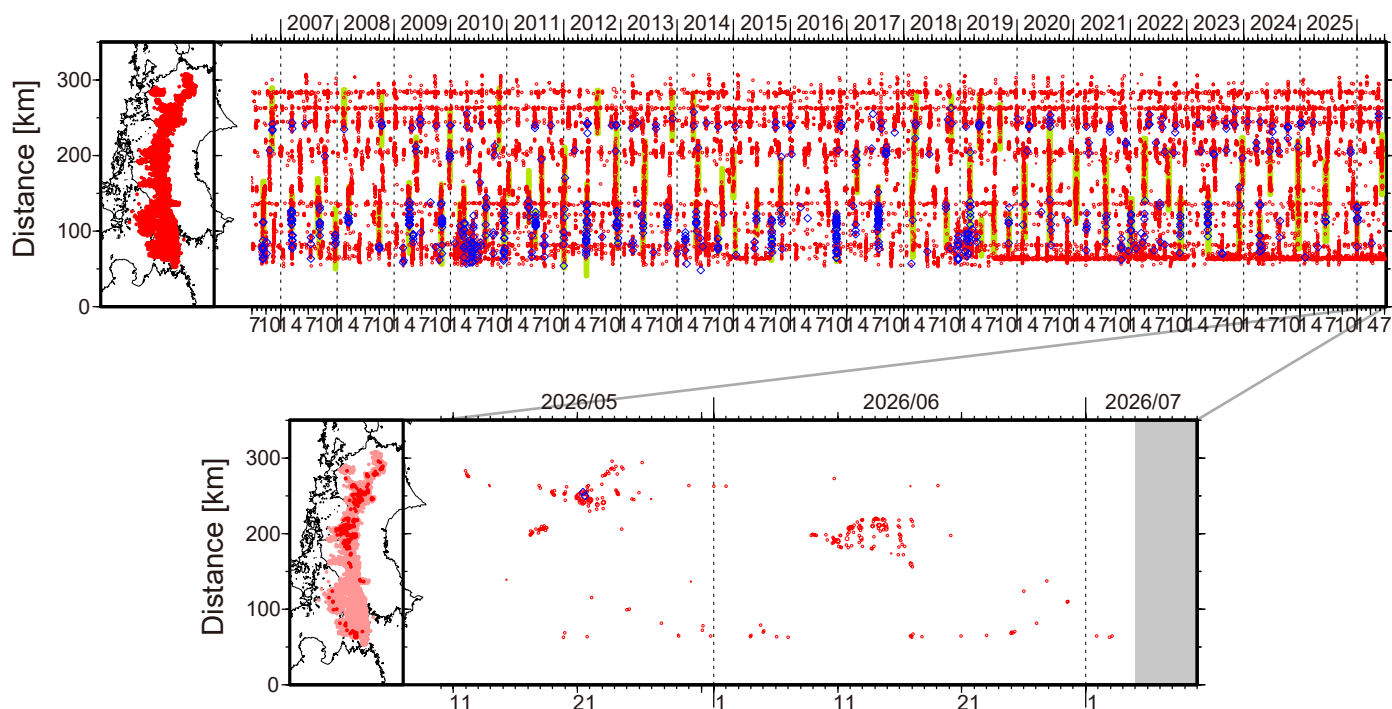


図 1. 四国における 2006 年 7 月～ 2026 年 7 月 4 日までの深部低周波微動の時空間分布（上図）．赤丸はエンベロープ相関・振幅ハイブリッド法 (Maeda and Obara, 2009) およびクラスタ処理 (Obara et al., 2010) によって 1 時間毎に自動処理された微動分布の重心である．青菱形は周期 20 秒に卓越する超低周波地震 (Ito et al., 2007) である．黄緑色太線は、これまでに検出された短期的スロースリップイベント (SSE) を示す．下図は 2026 年 6 月を中心とした期間の拡大図である．6 月 8 ～ 17 日頃には愛媛県東部から中部において活発な活動がみられた．この活動は、愛媛県東部で開始し、東西両方向への活動域の拡大がみられた．この活動に同期して短期的 SSE の断層モデルも推定されている．6 月 25 日頃には豊後水道付近において、ごく小規模な活動がみられた．

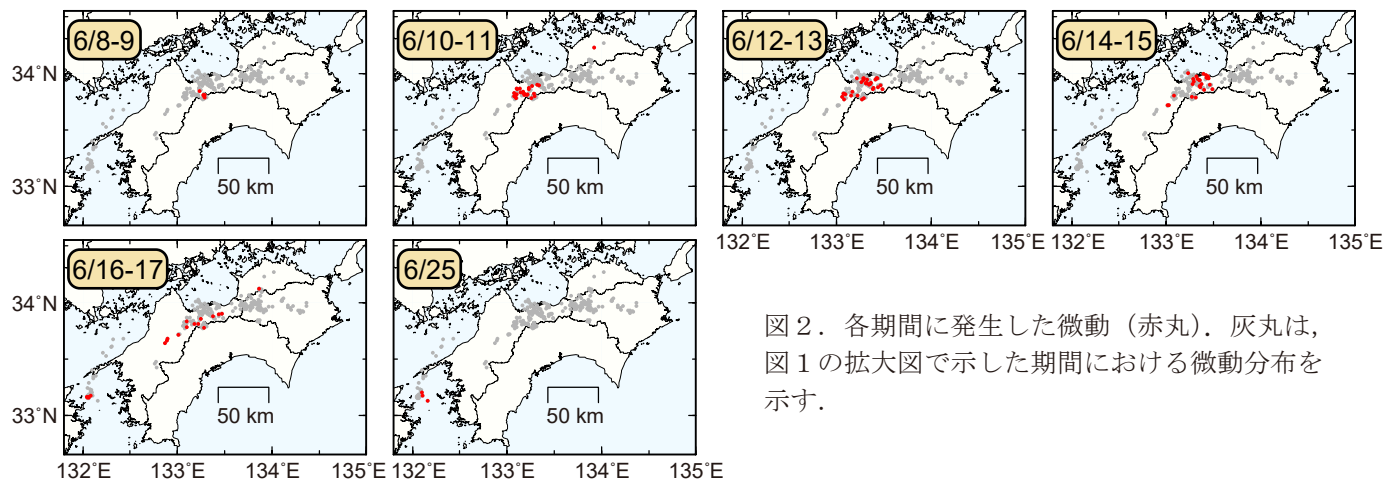


図 2. 各期間に発生した微動（赤丸）．灰丸は、図 1 の拡大図で示した期間における微動分布を示す．

四国中部の短期的スロースリップ活動状況（2026年6月）

- ・ 四国中部を活動域とするスロースリップイベント ($M_W 6.1$)
- ・ 2024年12月 ($M_W 6.2$, 四国中西部) 以来約1年半ぶり

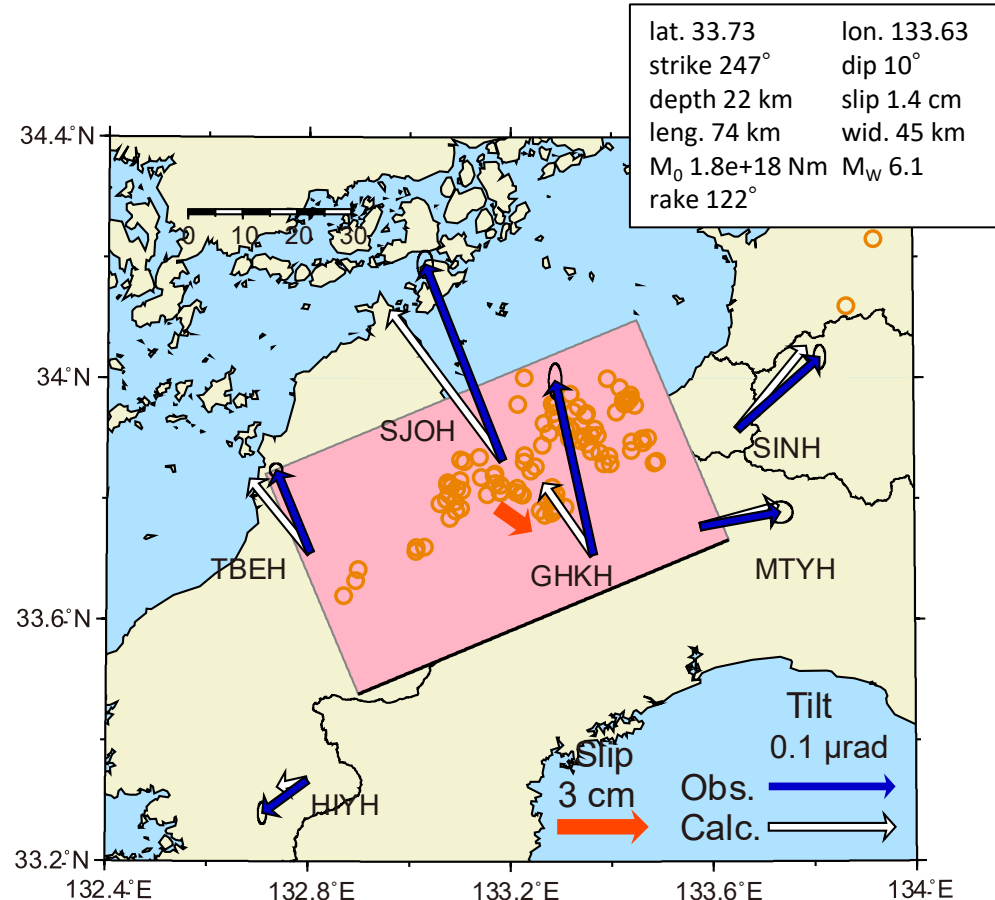
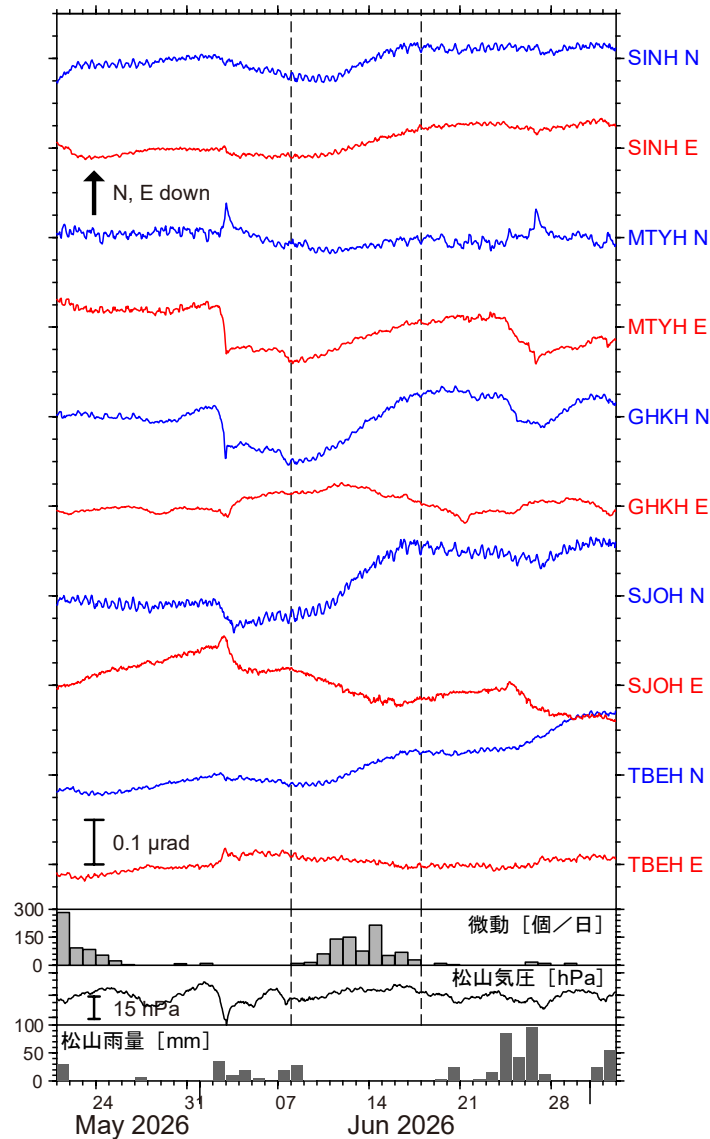
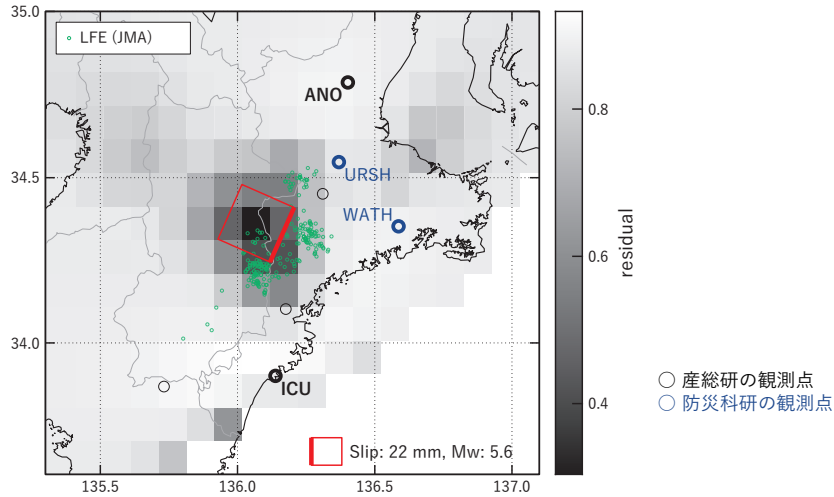


図2：6月8日～17日に観測された傾斜変化ベクトル（青矢印），推定されたスロースリップイベントの断層モデル（赤矩形・矢印），モデルから計算される傾斜変化ベクトル（白抜き矢印）を示す．1時間毎の微動エネルギーの重心位置（橙丸）を合わせて示す．すべり角はプレート相対運動方向に固定している．

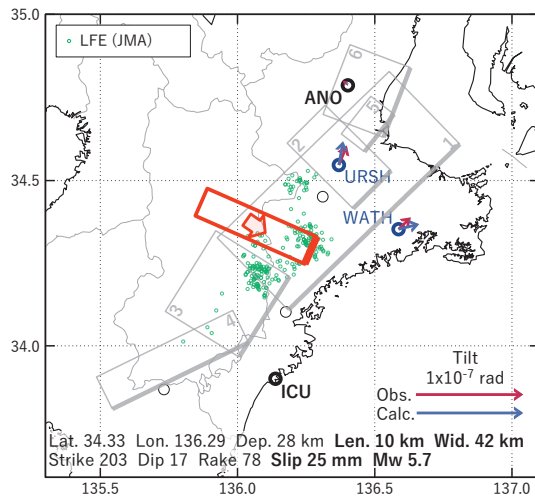
謝辞
気象庁のWebページで公開されている気象データを使用させていただきました．
記して感謝いたします．

[A] 2026/06/13PM-15AM

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

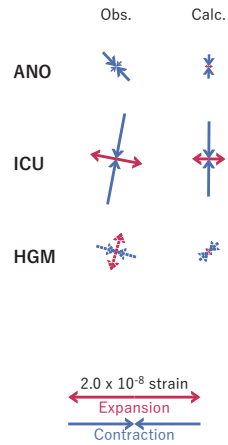


図3 2026/06/13PM-15AMの歪・傾斜変化（図2[A]）を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面（赤色矩形）と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2025/05/05PM-09AM (Mw 5.9), 2: 2025/09/05-07 (Mw 5.6), 3: 2026/02/09-12AM (Mw 5.6),
4: 2026/02/12PM-15AM (Mw 5.7), 5: 2026/02/19-20 (Mw 5.6), 6: 2026/02/21-26 (Mw 5.6),

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

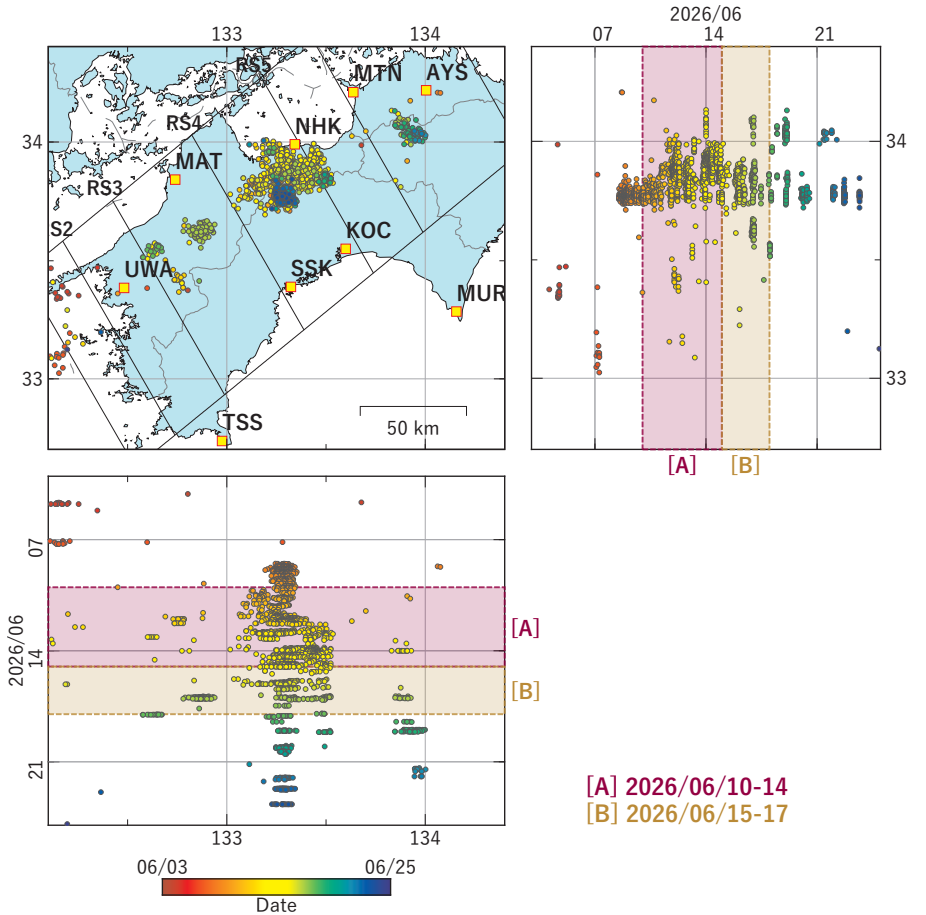


図4 四国地域における深部低周波地震の時空間分布図（2026/06/03 00:00:00-2026/06/25 00:00:00 (JST)）。気象庁カタログによる。

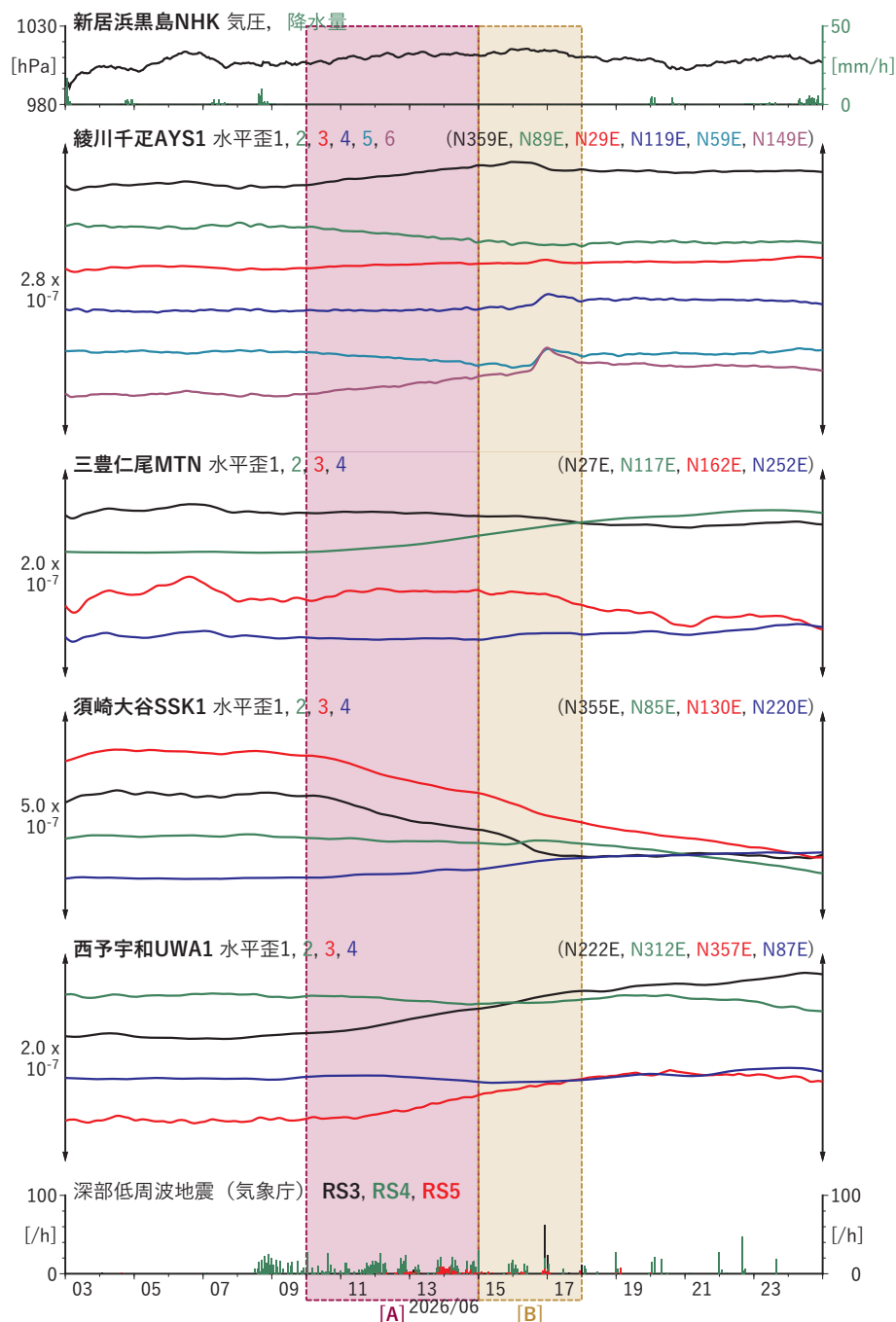


図5 歪・傾斜の時間変化(1) (2026/06/03 00:00-2026/06/25 00:00 (JST))

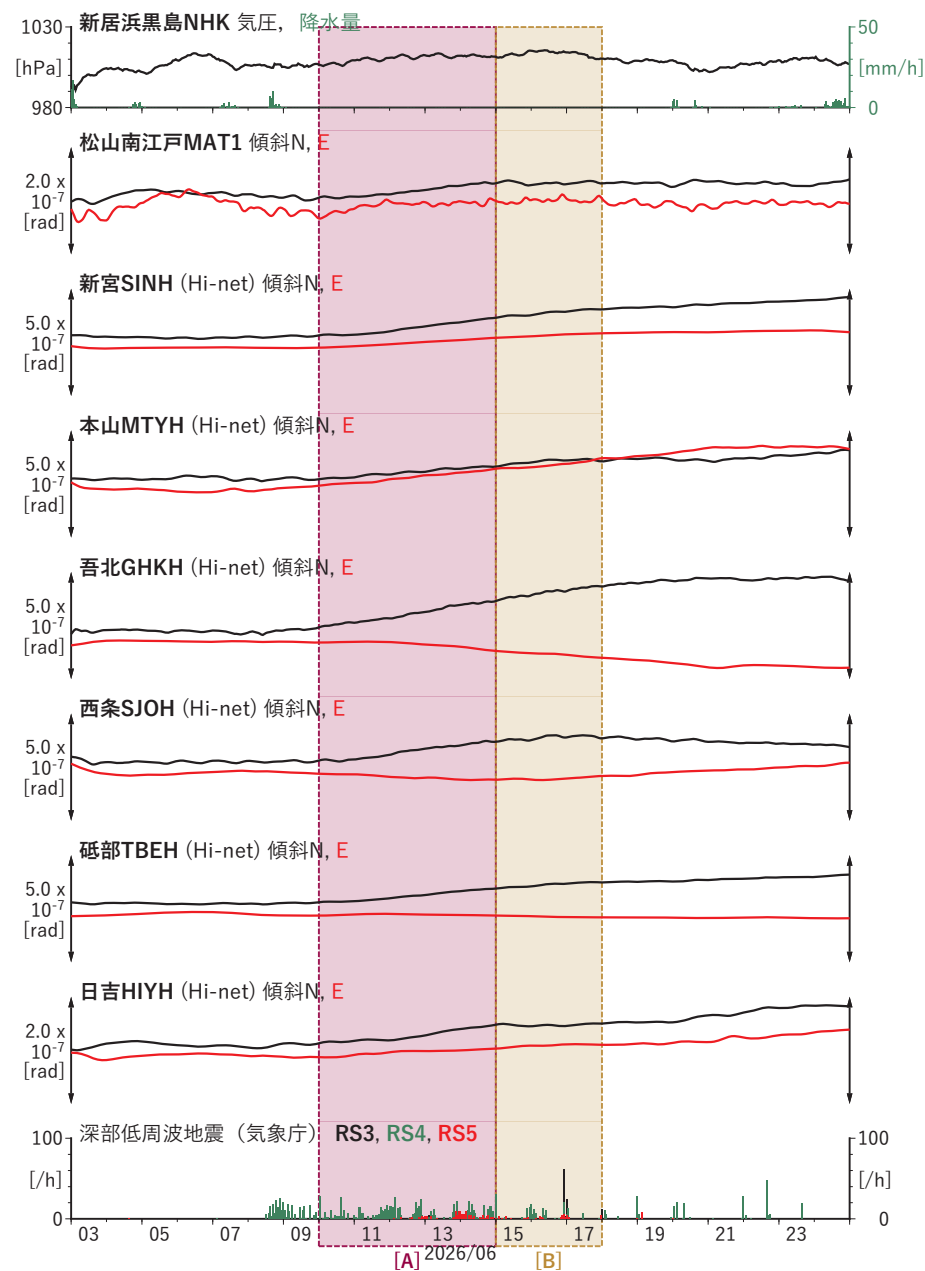
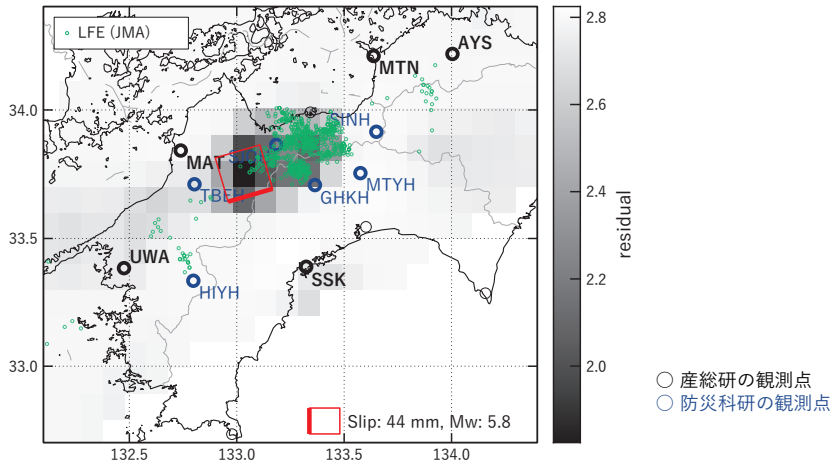


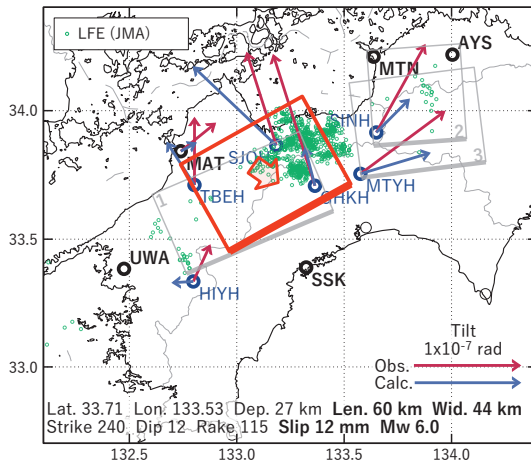
図5 歪・傾斜の時間変化(2) (2026/06/03 00:00-2026/06/25 00:00 (JST))

[A] 2026/06/10-14

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

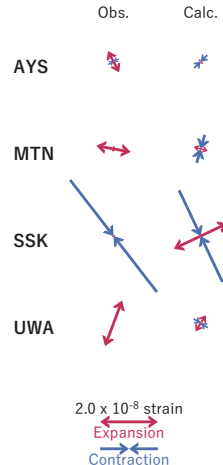


図6 2026/06/10-14の歪・傾斜変化 (図5[A]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

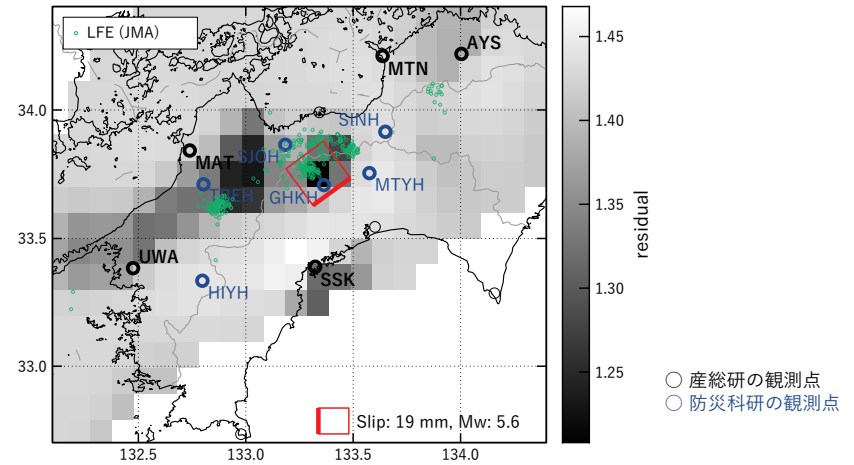
(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。

1: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0), 2: 2026/05/09PM-15AM (Mw 5.6), 3: 2026/05/19-22 (Mw 5.6)

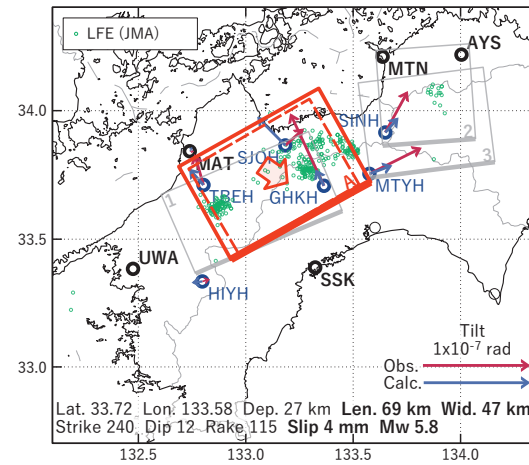
(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

[B] 2026/06/15-17

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

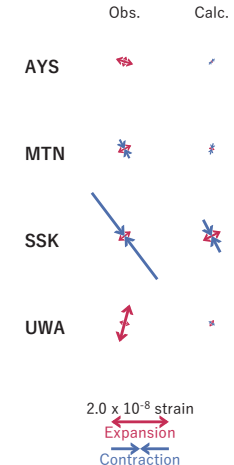


図7 2026/06/15-17の歪・傾斜変化 (図5[B]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って20 x 20 kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小にするすべり量を選んだときの残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面 (赤色矩形) と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

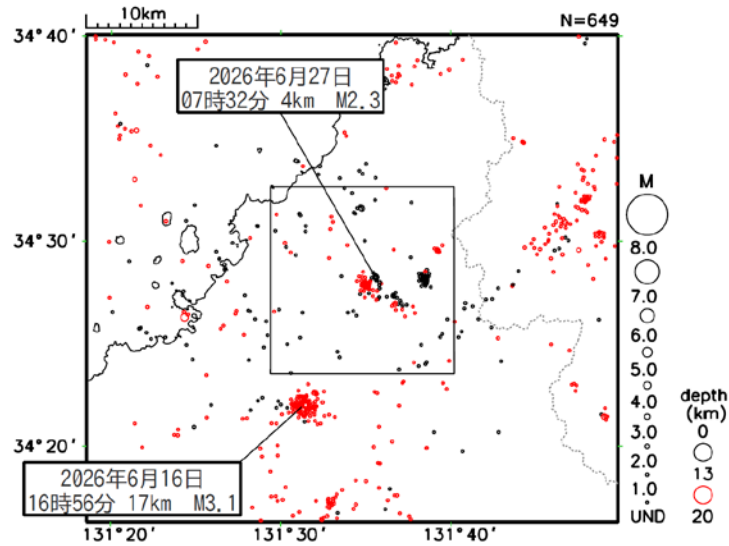
1: 2026/05/01PM-08AM (Mw 6.0), 2: 2026/05/09PM-15AM (Mw 5.6), 3: 2026/05/19-22 (Mw 5.6), A: 2026/06/10-14 (Mw 6.0)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

山口県北部の地震活動

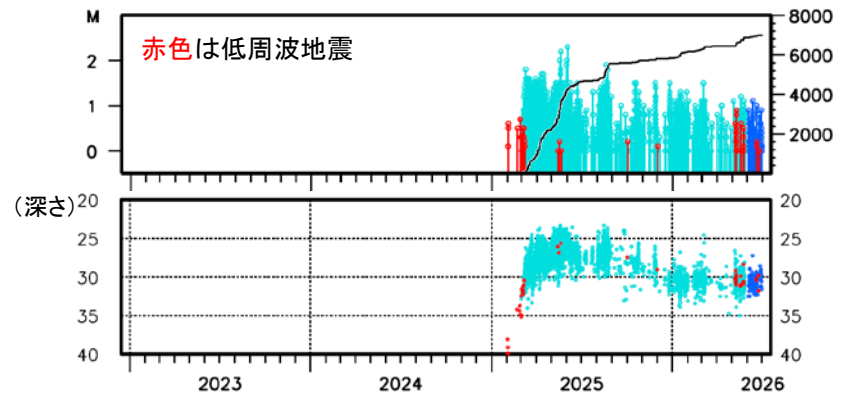
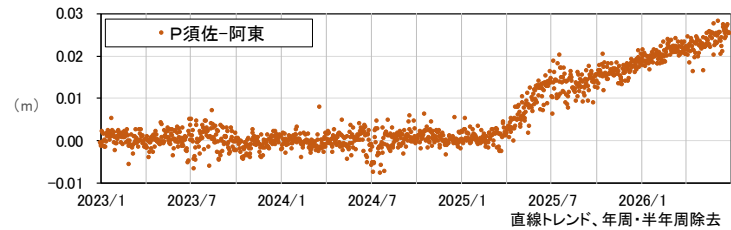
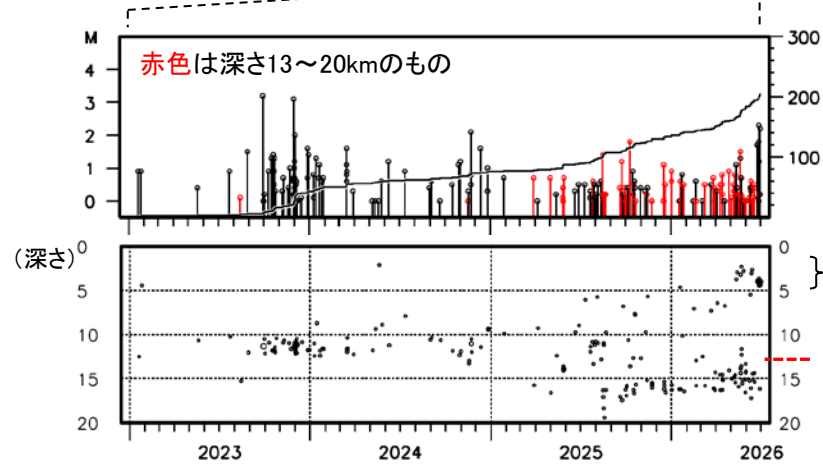
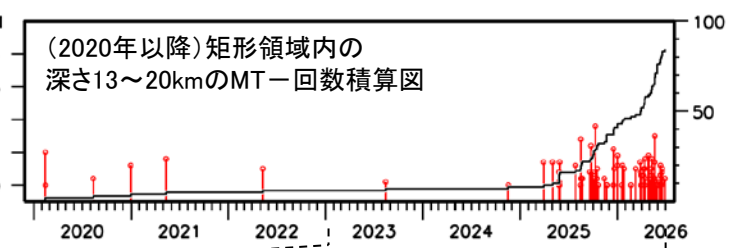
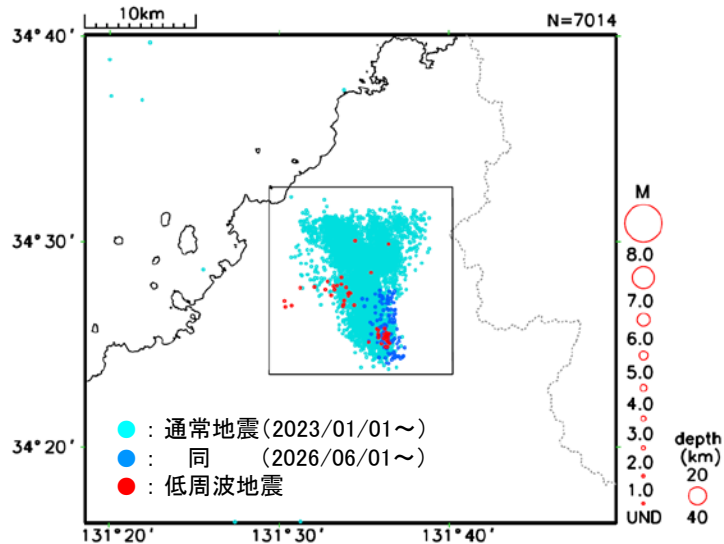
2023年1月1日～2026年6月30日、深さ 0～20km

(深さ13km以深を赤色でプロット、Mすべて)



2023年1月1日～2026年6月30日、深さ: 20～40km

(2026年 6月以降を青色で、低周波地震を赤色でプロット、Mすべて)

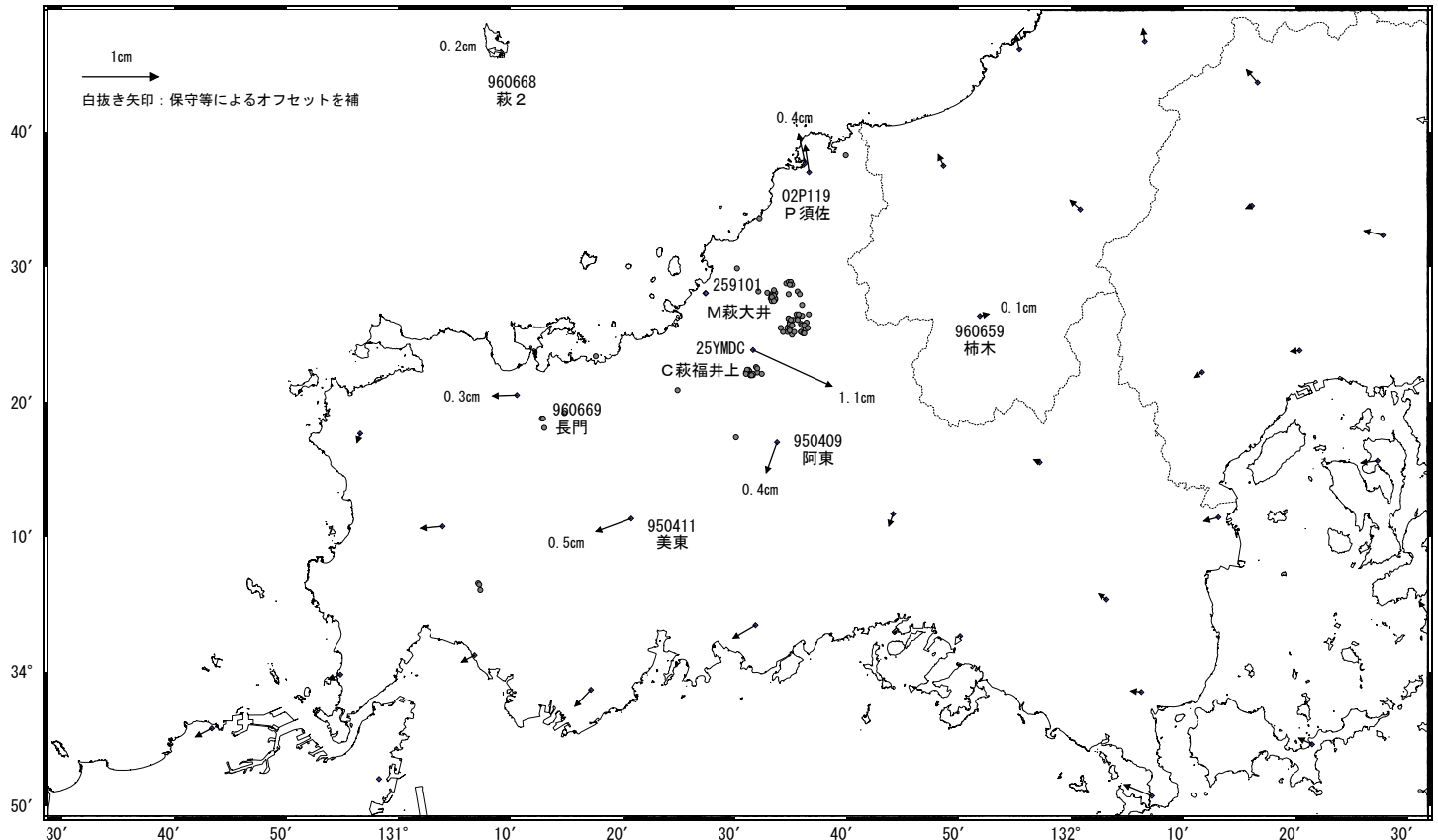


山口県北部の地震活動域周辺の地殻変動(暫定)

地殻変動

基準期間: 2025-10-01~2025-10-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-05-17~2026-05-23 [R5. 1: 速報解]

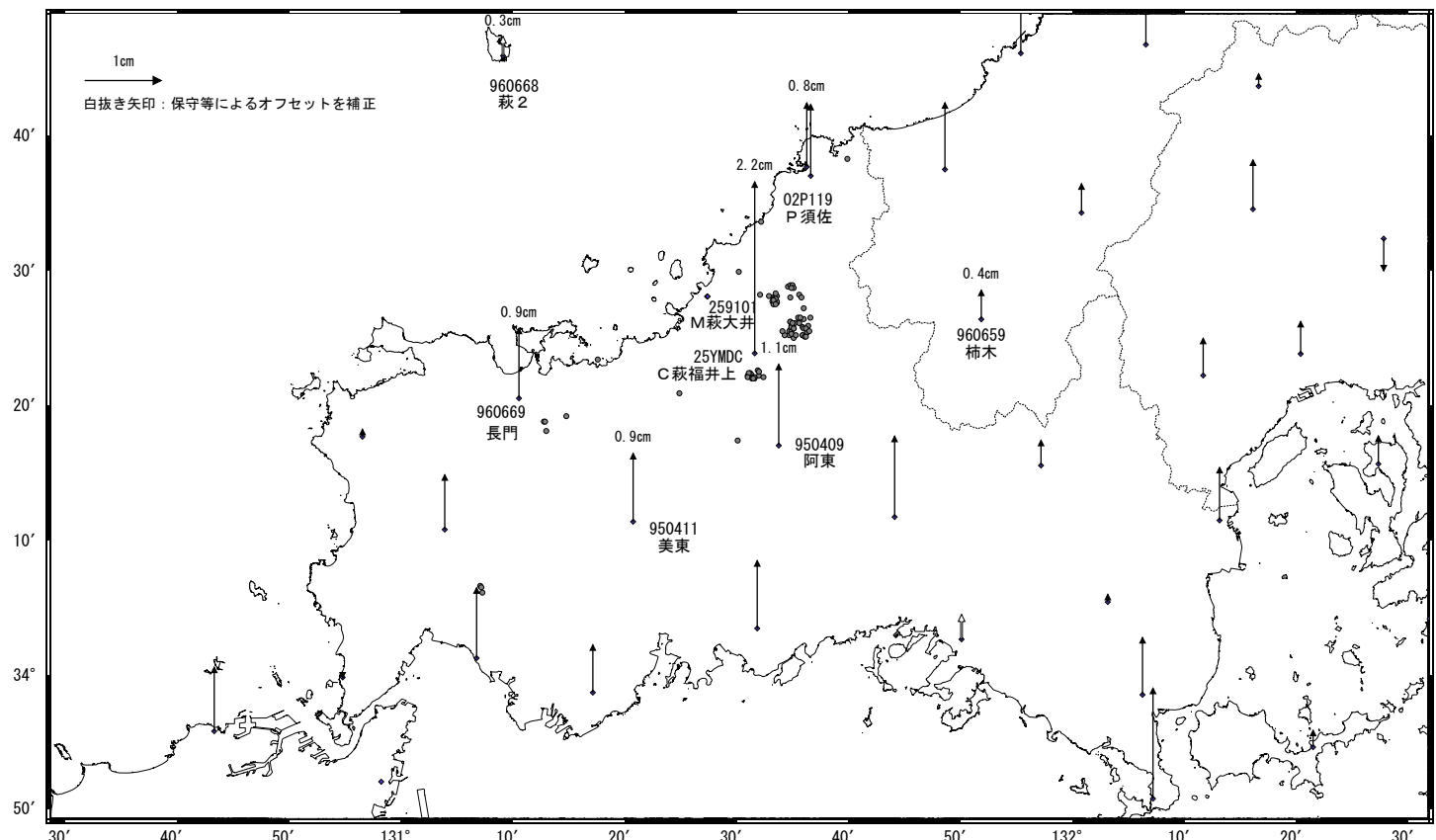
計算期間: 2017-01-01~2020-01-01



● 震央 (M1以上の地震)
★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

基準期間: 2025-10-01~2025-10-07 [F5. 1: 最終解]
比較期間: 2026-05-17~2026-05-23 [R5. 1: 速報解]

計算期間: 2017-01-01~2020-01-01



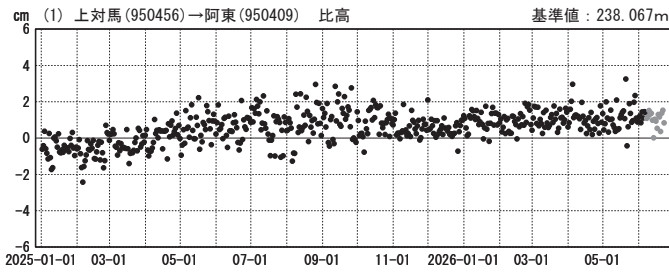
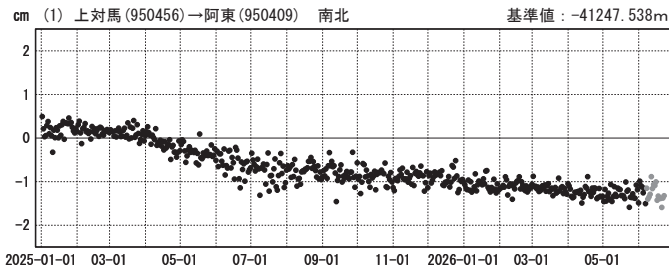
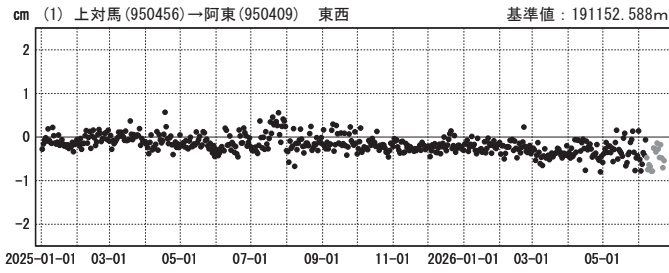
● 震央 (M1以上の地震)
★ 固定局: 上対馬 (950456) (長崎県)

※C萩福井上は2025年6月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。
※M萩大井は基準期間のデータが存在しない。

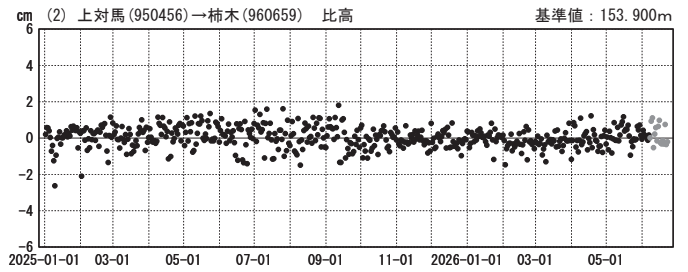
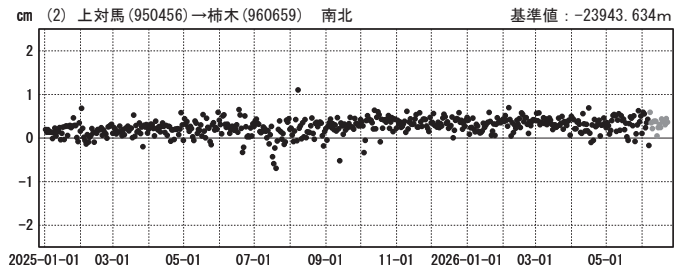
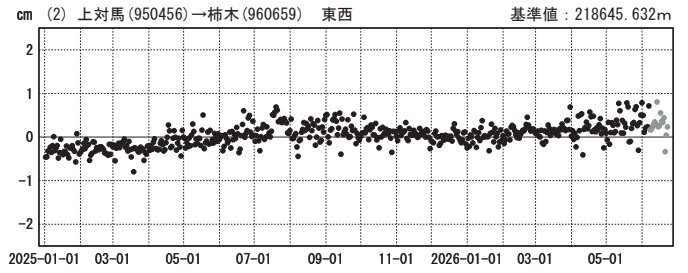
1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

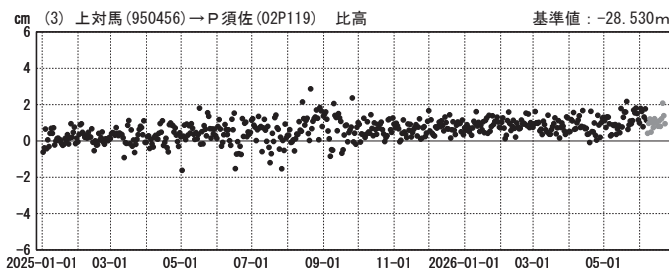
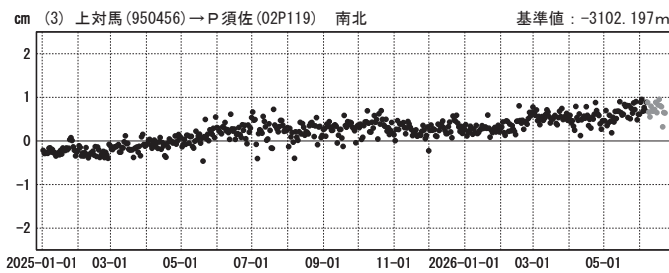
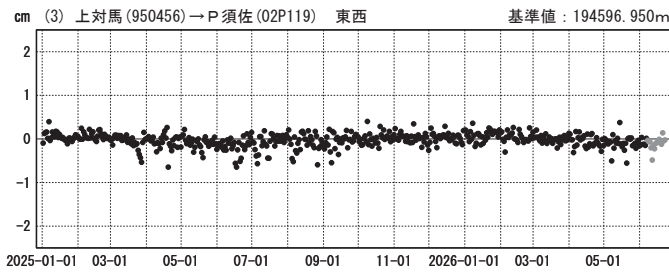
期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



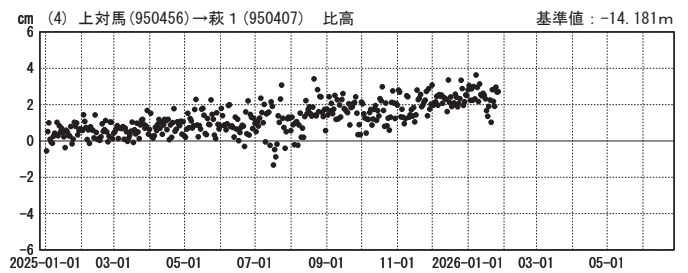
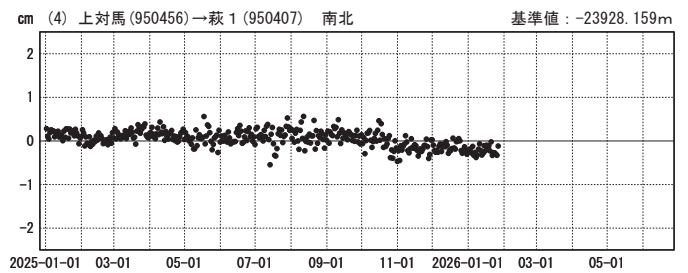
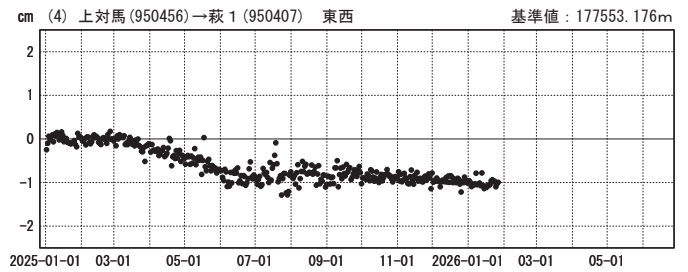
期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



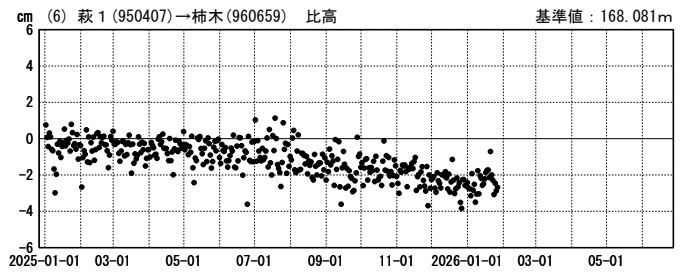
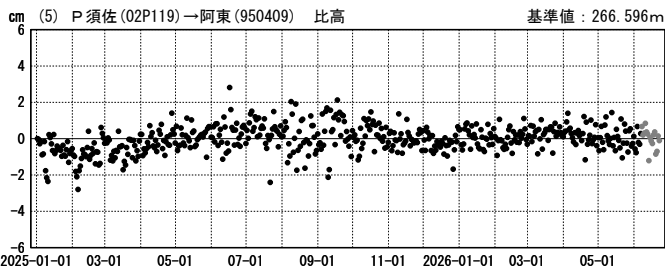
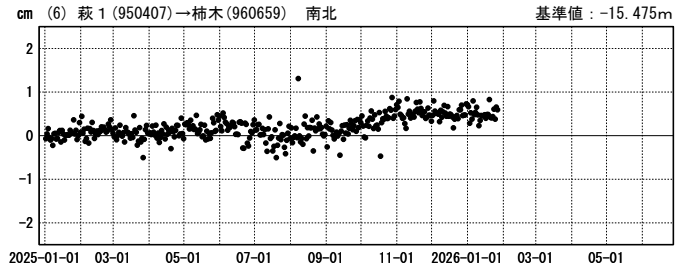
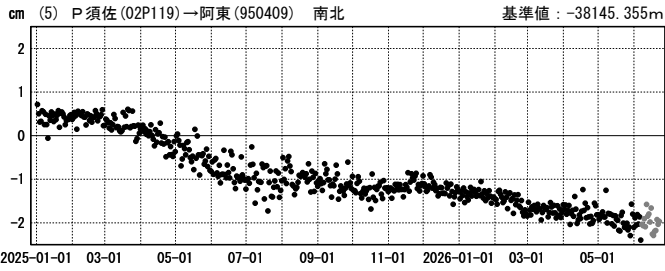
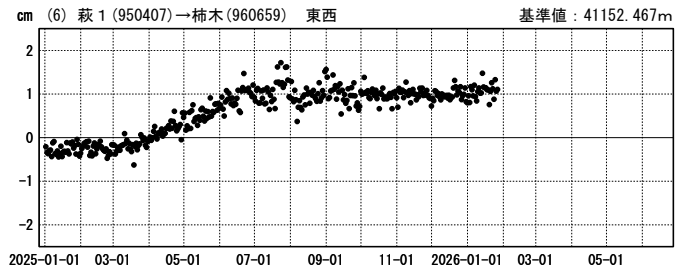
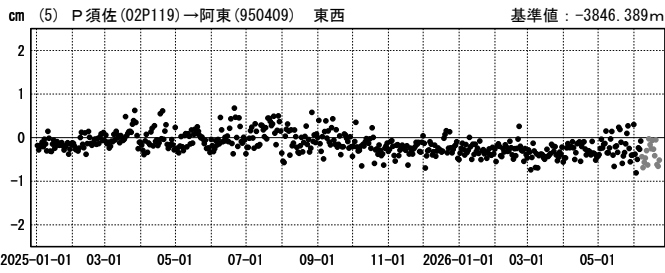
●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

1次トレンド除去後グラフ

計算期間：2017-01-01～2020-01-01

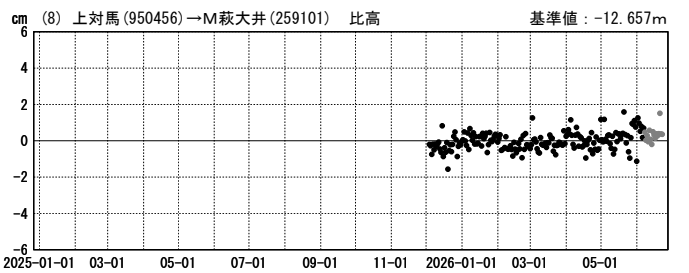
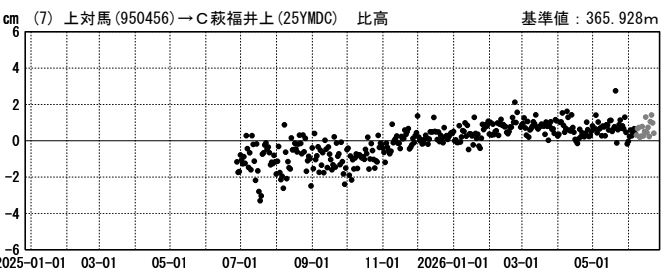
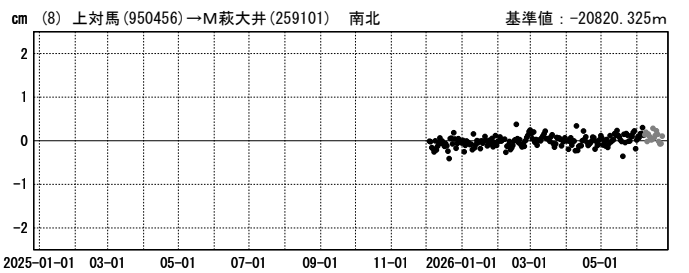
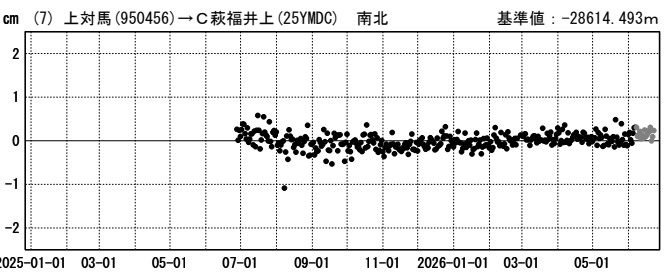
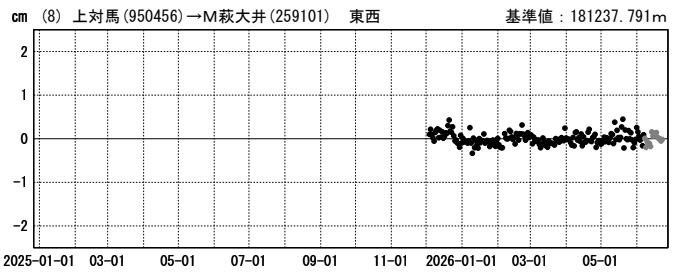
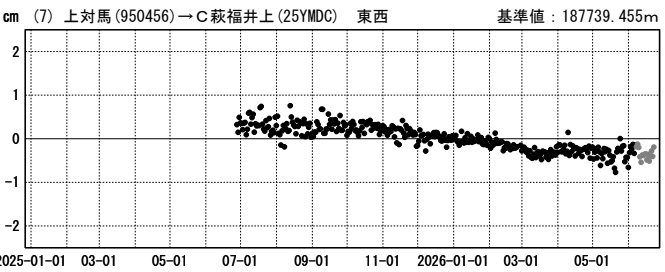
期間：2025-01-01～2026-06-22 JST

期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



期間：2025-01-01～2026-06-22 JST

期間：2025-01-01～2026-06-22 JST

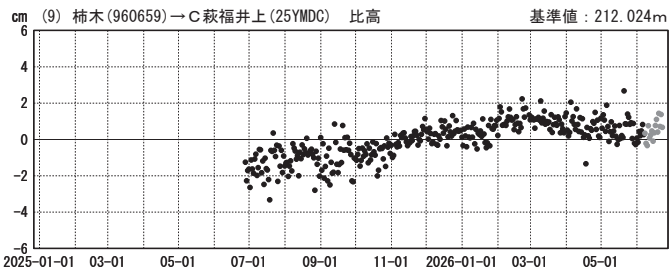
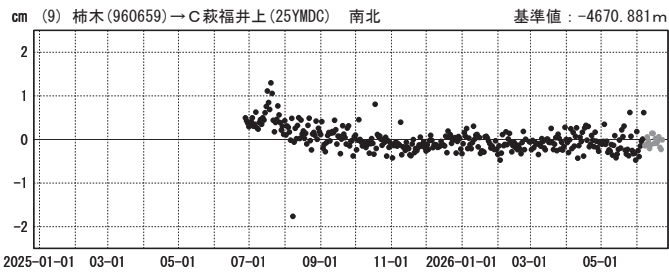
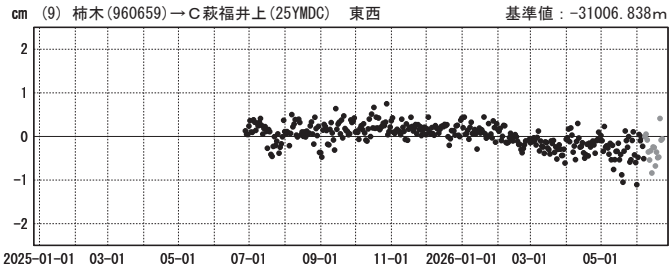


※C萩福井上は2025年6月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。
 ※M萩大井は2025年12月以前の観測データが存在しないため1次トレンドの補正は実施していない。

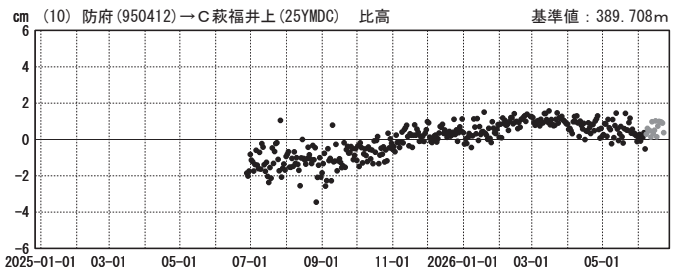
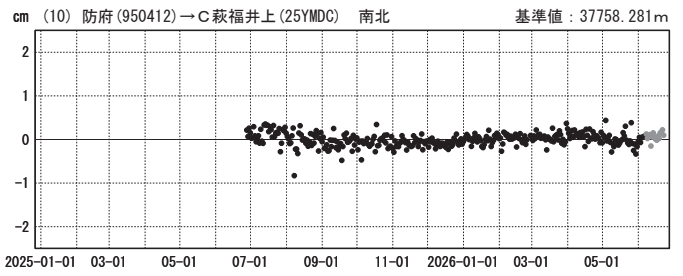
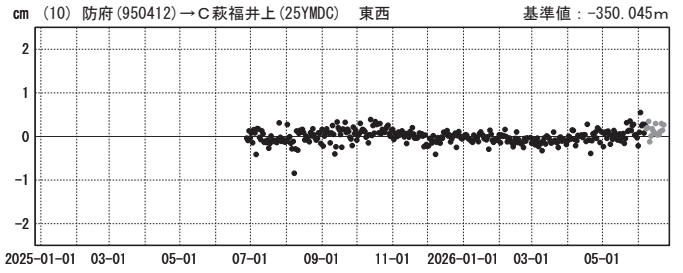
●—[F5.1:最終解] ●—[R5.1:速報解]

成分変化グラフ

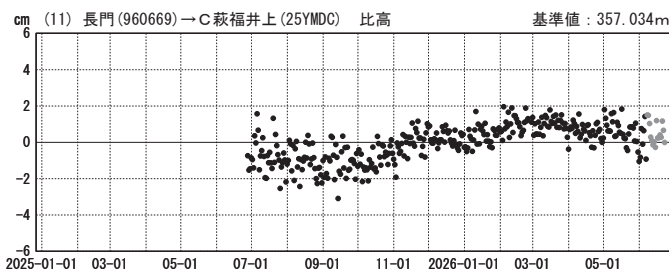
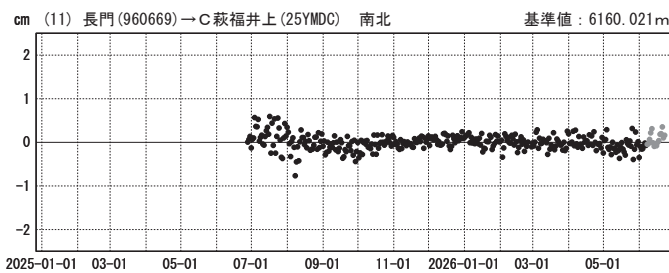
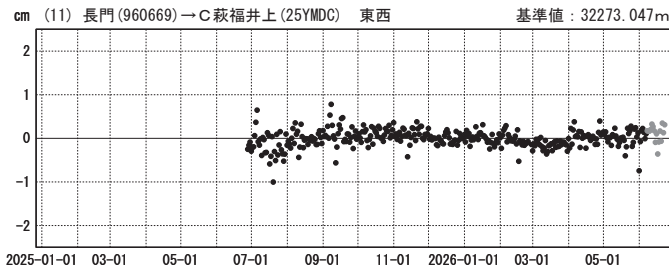
期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



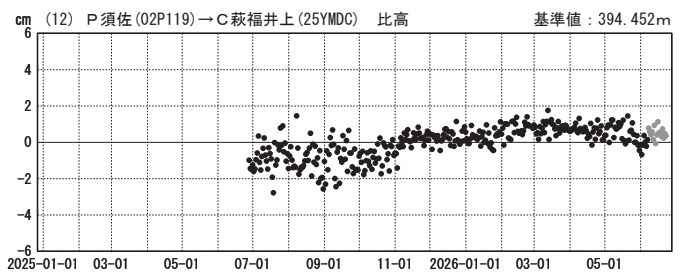
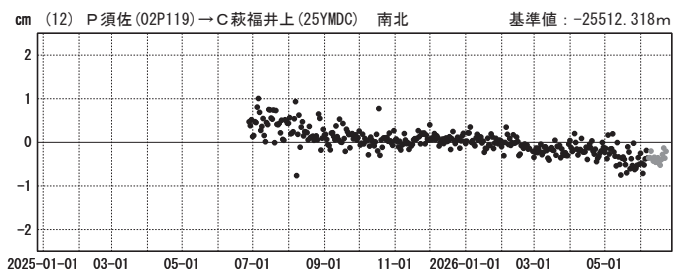
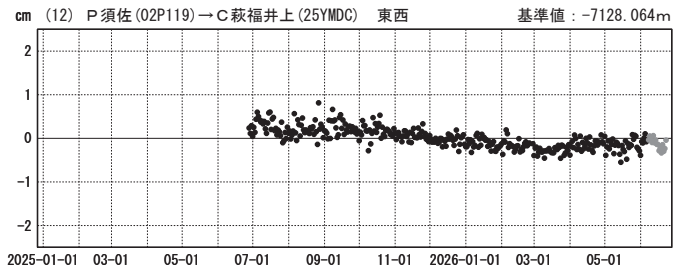
期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



期間：2025-01-01～2026-06-22 JST



●---[F5.1:最終解] ●---[R5.1:速報解]

2026年5～6月の山口県北部の地震活動に伴う傾斜変動

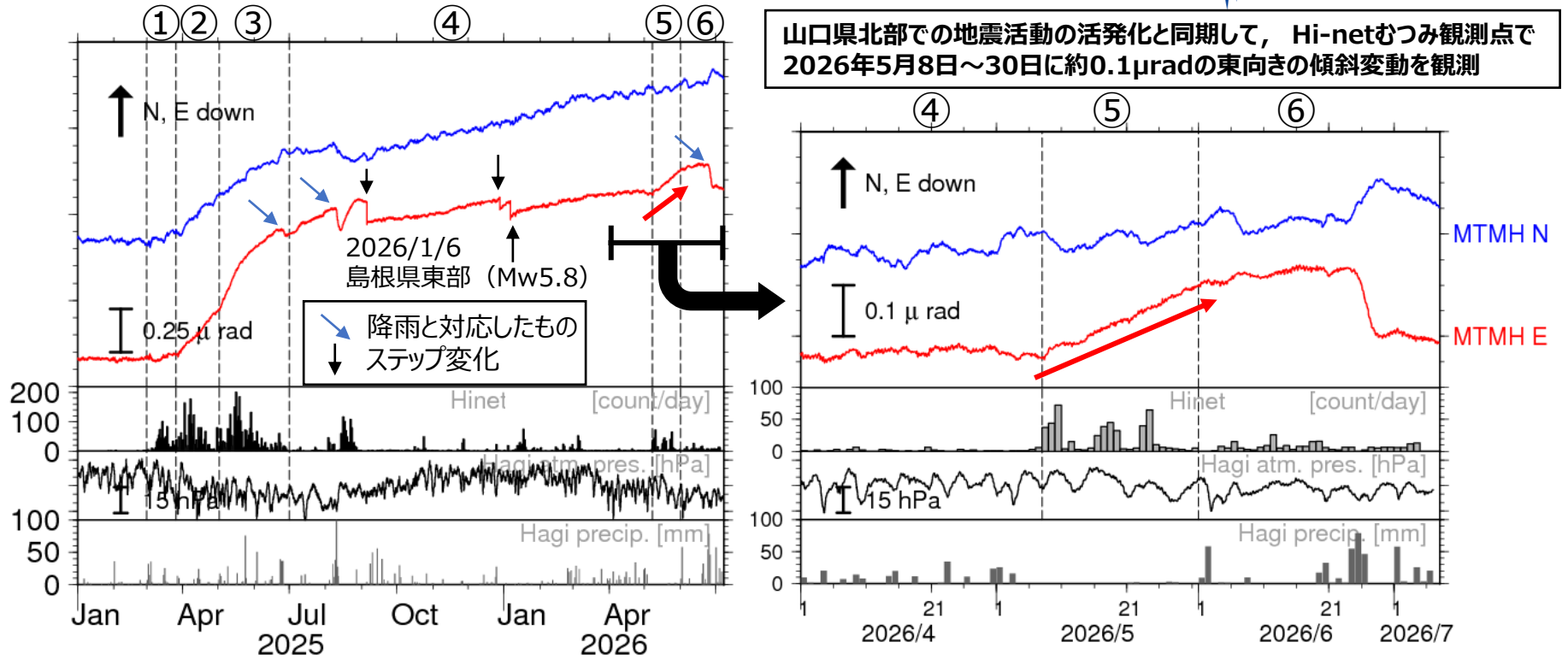


図1 (左) 2025年1月1日～2026年7月7日, (右) 2026年4月1日～7月7日のHi-netむつみでの傾斜時系列. 上方向への変化が北・東下がりの傾斜変動を表し, BAYTAP-Gにより潮汐応答成分を除去した. 図2の範囲内防災科研Hi-netによる2026年7月4日までの地震活動度, 気象庁萩の気圧・雨量を合わせて示す.

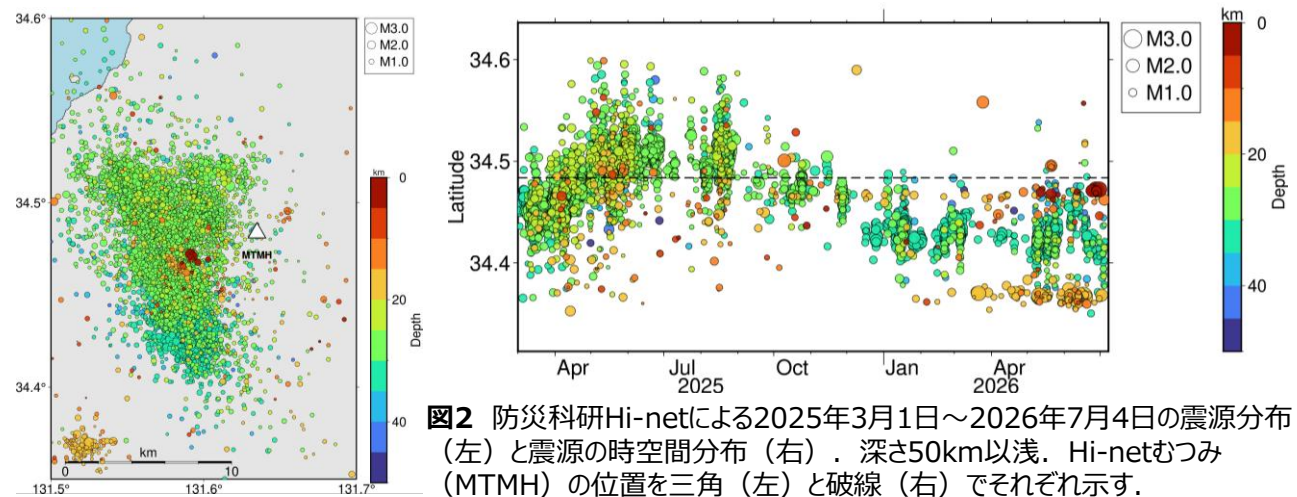


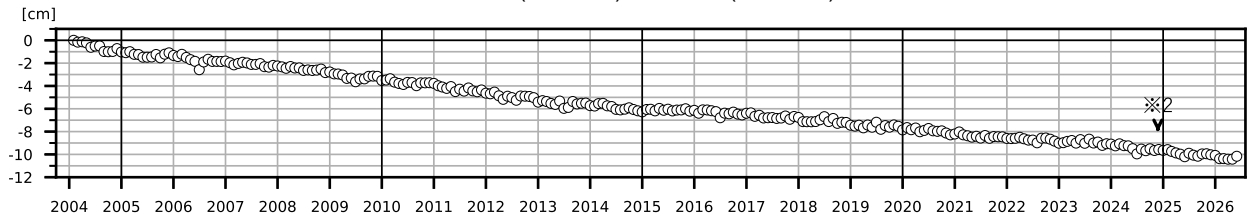
図2 防災科研Hi-netによる2025年3月1日～2026年7月4日の震源分布 (左)と震源の時空間分布 (右). 深さ50km以浅. Hi-netむつみ (MTMH) の位置を三角 (左)と破線 (右)でそれぞれ示す.

謝辞
気象庁のWebページで公開されている気象データを使用させていただきました. 記して感謝いたします.

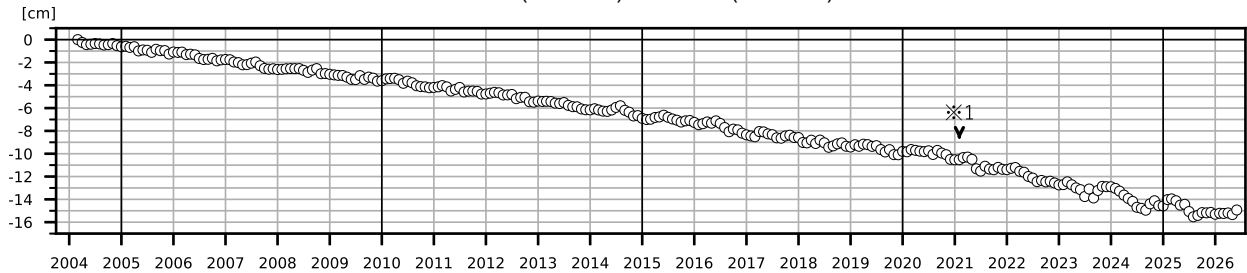
紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

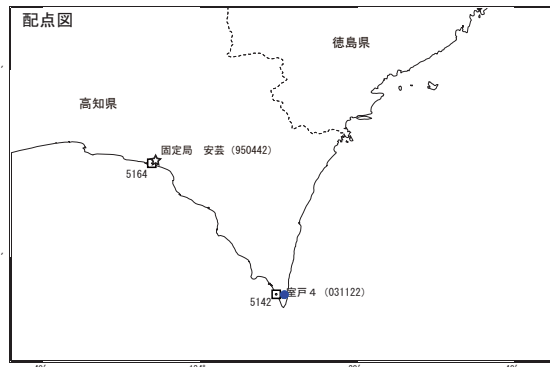
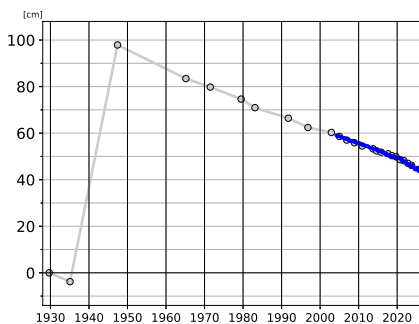
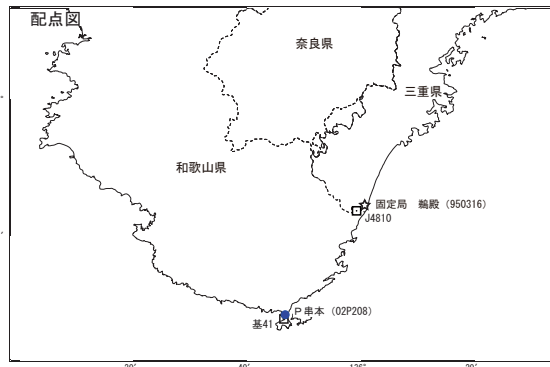
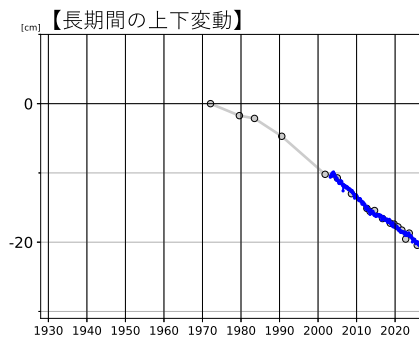
鵜殿 (950316) - P串本 (02P208)



安芸 (950442) - 室戸 4 (031122)



○：GNSS 連続観測（GEONET 月平均値）



- GNSS 連続観測のプロット点は、GEONET による日々の座標値（F5.1：最終解）から計算した値の月平均値である。（最新のプロット点：6月1日～6月13日の平均値）
- 灰色のプロットは電子基準点の最寄りの水準点の水準測量結果を示している（固定：J4810、5164）。

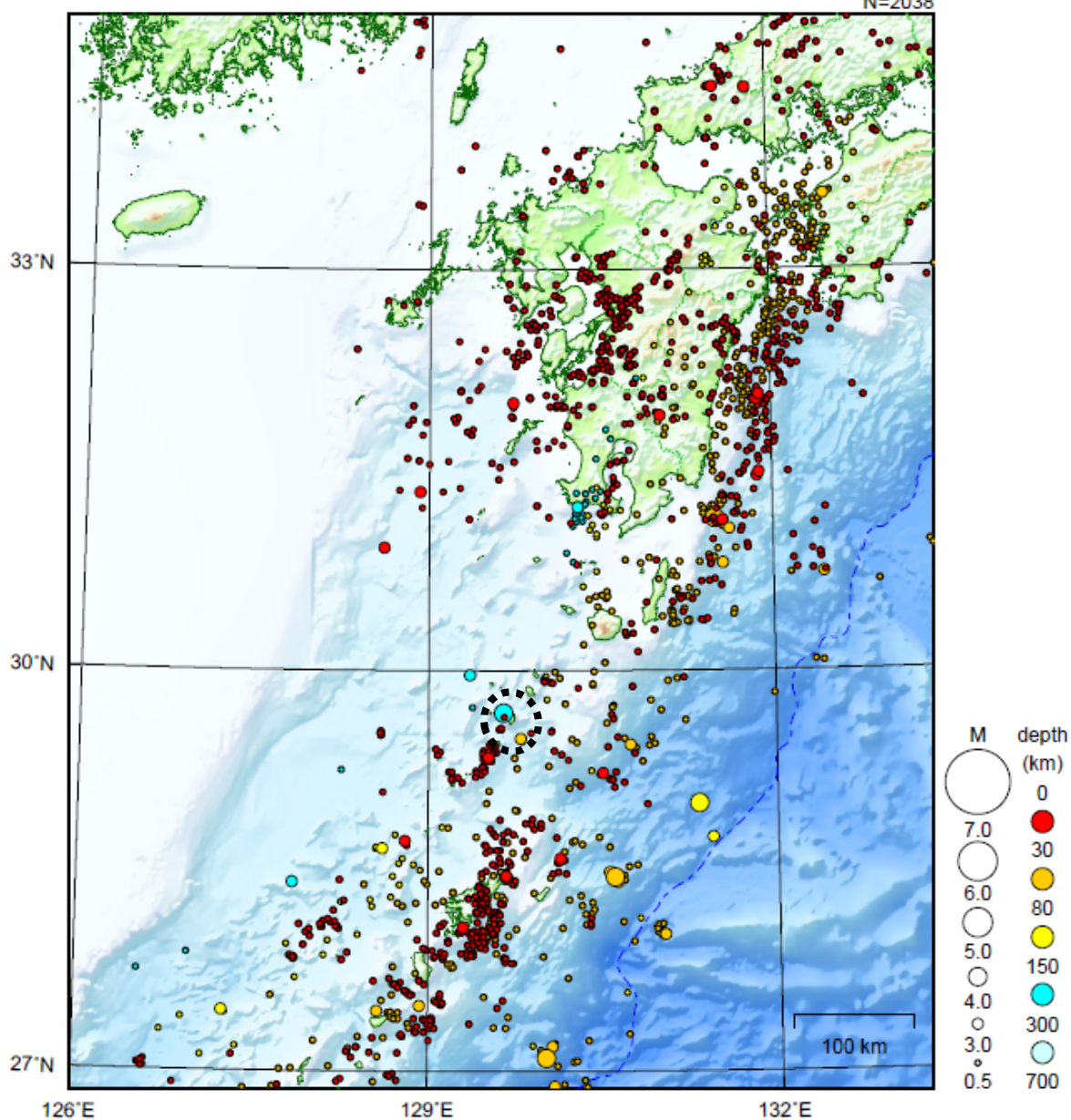
※ 1 2021 年 2 月 2 日に電子基準点「安芸」のアンテナ更新及びレドーム交換を実施した。

※ 2 2024 年 11 月 25 日に電子基準点「鵜殿」のアンテナ更新を実施した。

九州地方

2026/06/01 00:00 ~ 2026/06/30 24:00

N=2038



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

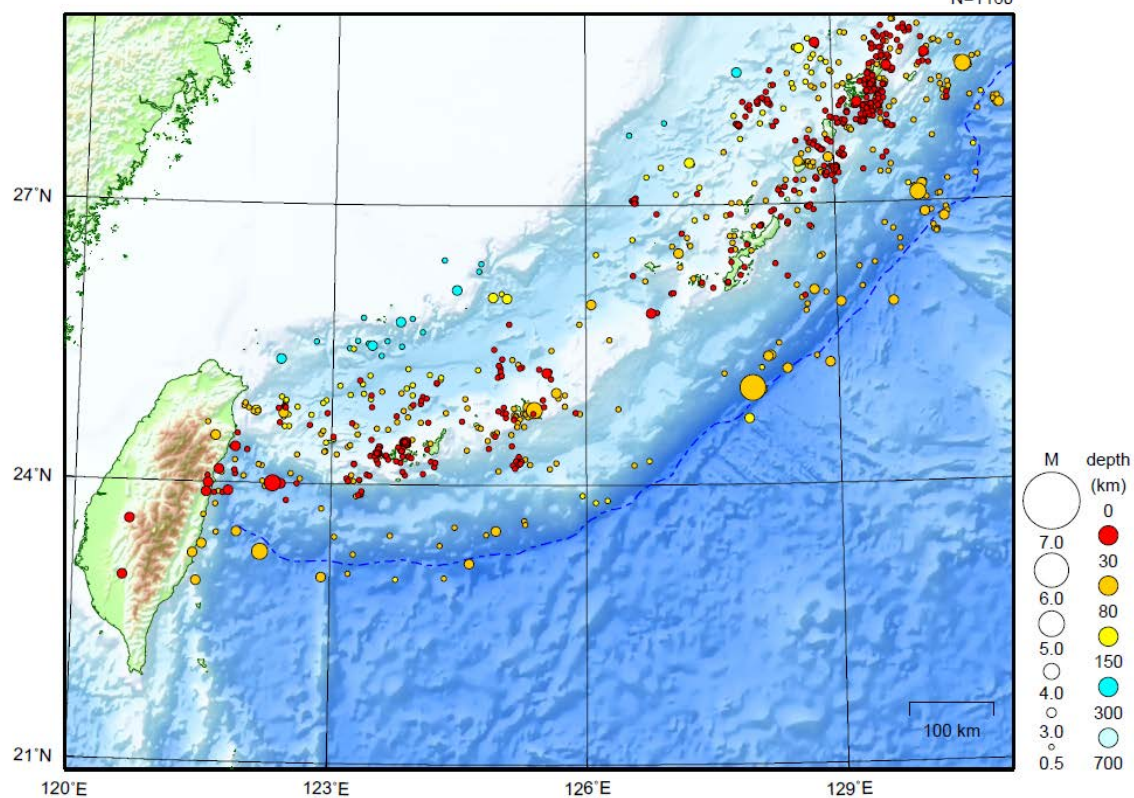
[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

沖縄地方

2026/06/01 00:00 ~ 2026/06/30 24:00

N=1160



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030 及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った地震活動はなかった。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

2026年6月8日 フィリピン諸島、ミンダナオの地震

(1) 概要 (注1)

2026年6月8日08時37分(日本時間、以下同じ)にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ55kmでMw7.7の地震(Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード)が発生した。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

気象庁はこの地震に伴い、8日09時05分に茨城県から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島、小笠原諸島に津波注意報を発表した(8日16時50分に解除)。この地震により、小笠原諸島の父島二見で17cmの津波を観測するなど、関東地方から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島及び小笠原諸島で津波を観測した。また、フィリピンのミンダナオ島キアンバで1.48mなどの津波を観測した。

また、この地震により、フィリピンで死者81人、負傷者1300人以上などの被害が生じた(2026年7月1日現在)。

気象庁はこれらの地震に対して、それぞれ8日09時06分及び10時58分並びに12時08分に遠地地震に関する情報(津波警報等(大津波警報・津波警報あるいは津波注意報)を発表中)を発表した。

6月8日のフィリピン諸島、ミンダナオの地震に伴い気象庁が発表した主な情報及び報道発表を表1-1～1-4に示す。

(注1) 震源要素は、米国地質調査所(USGS)による(2026年7月6日現在)。ただし、発震機構及びMwは、今回の地震は気象庁、その他の地震はGlobal CMTによる。海外の津波の高さは米国海洋大気庁(NOAA)による(2026年7月6日現在)。地震の被害は、OCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs:国連人道問題調整事務所、2026年7月1日現在)による。

(2) 地震活動

ア. 最近の地震活動 (注2)

2026年6月8日08時37分にフィリピン諸島、ミンダナオの深さ55kmでMw7.7 (Mwは気象庁による) の地震が発生した。この地震の発震機構 (気象庁によるCMT解) は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (図2-1の領域a) ではM6.0以上の地震が時々発生しており、2002年3月6日には今回の地震より西側でMw7.5 (MwはGlobal CMTによる) の地震が発生した。また、今回の地震の震央付近では、2017年4月29日にMw6.9 (MwはGlobal CMTによる) の地震が、2023年11月17日にはMw6.8 (MwはGlobal CMTによる) の地震が発生していた。

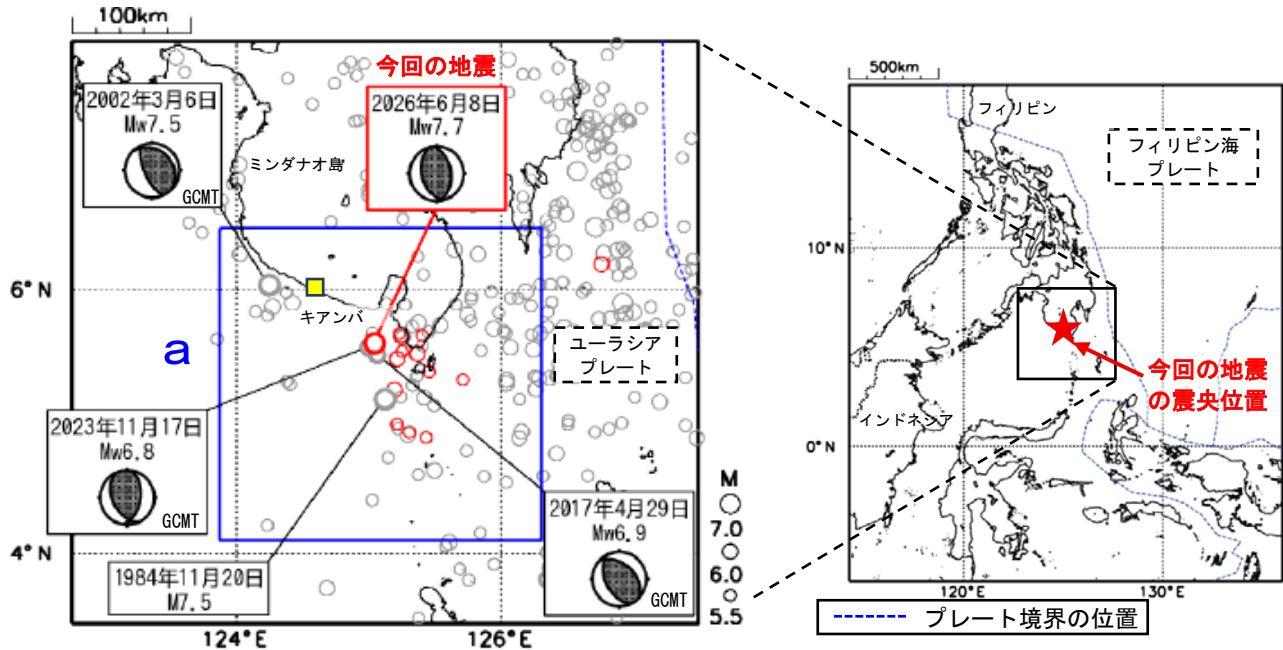


図2-1 震央分布図 (1980年1月1日~2026年6月30日、深さ0~250km、 $M \geq 5.5$)
2026年6月以降の地震を赤色で表示

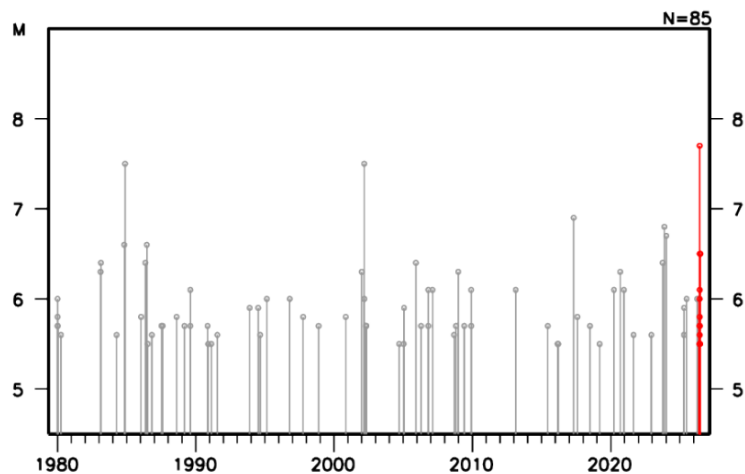


図2-2 図2-1の領域a内のM-T図

(注2) 震源要素は米国地質調査所 (USGS) による (2026年7月6日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震のうち、2026年6月8日08時37分の地震のMw及び発震機構は気象庁による、それ以外の地震のMw及び発震機構はGlobal CMTによる。プレート境界の位置はBird (2003) *1より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

今回の地震の震央付近（領域b）の時空間分布図を見ると、Mw7.7の地震の発生後、地震活動域が南側に100km程度の範囲で広がり、6月8日09時55分及び6月26日にはM6.5の地震が発生している。6月30日現在、地震活動は概ね減衰してきている。

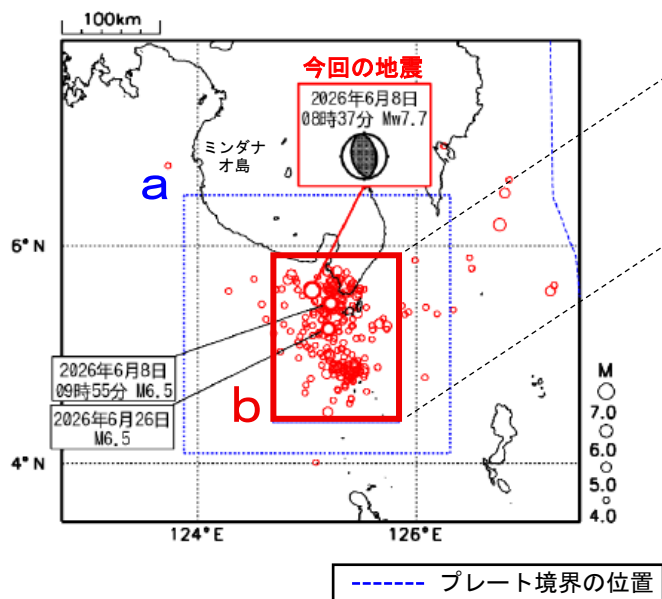


図2-3 図2-1の震央周辺の拡大図
(2026年6月1日～6月30日、
深さ0～250km、 $M \geq 4.5$)

図2-4 図2-3の領域b内の
時空間分布図（南北投影）及びM-T図

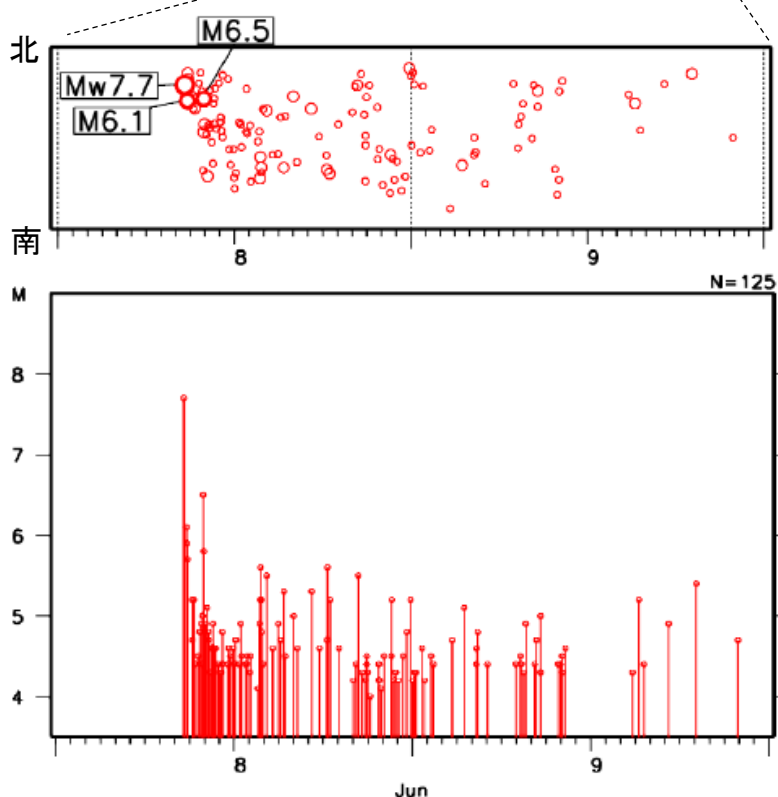
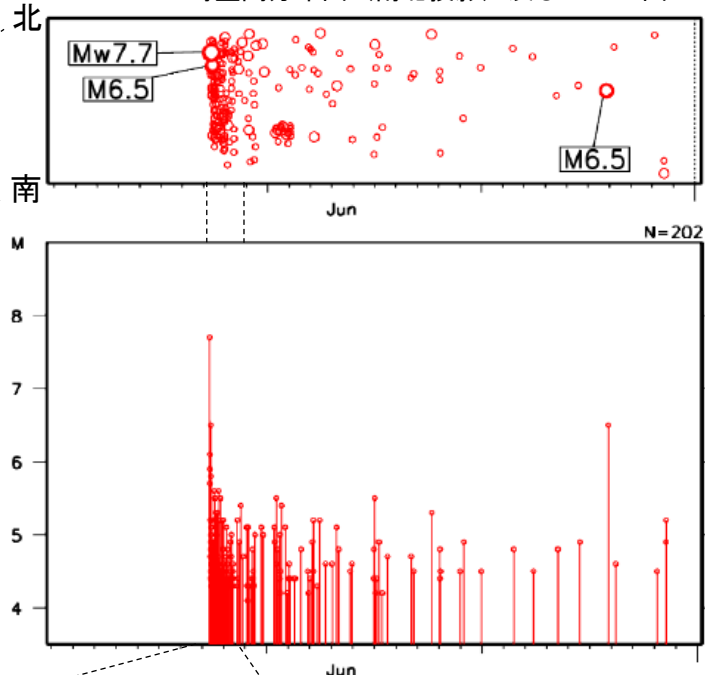


図2-5 図2-3の領域b内の
時空間分布図（南北投影）及びM-T図
(2026年6月8日～6月9日)

エ. 過去に発生した主な地震 (注4)

1904 年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近 (領域 d) では M7.0 以上の地震が時々発生しており、1984 年 11 月 20 日の Mw7.5 の地震を除けば、いずれも深さが 100km 未満の地震である。

1918 年 8 月 15 日には M8.3 の地震が発生し、死者が発生するなどの被害を生じた。また、1976 年 8 月 17 日には Mw8.0 の地震が発生し、死者 8,000 人などの被害が生じた。

2002 年 3 月 6 日には Mw7.5 の地震が発生し、死者 15 人、負傷者 100 人などの被害を生じた。

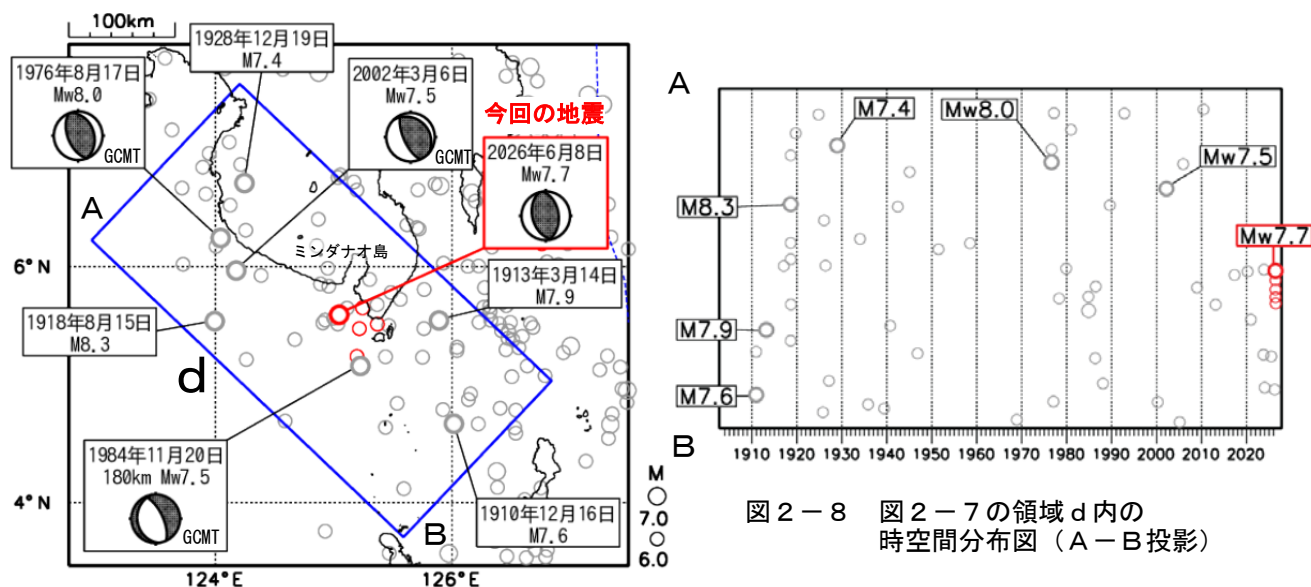


図 2-7 震央分布図 (1904 年 1 月 1 日～2026 年 6 月 30 日、深さ 0～250km、 $M \geq 6.0$)
2026 年 6 月以降の地震を赤色で表示

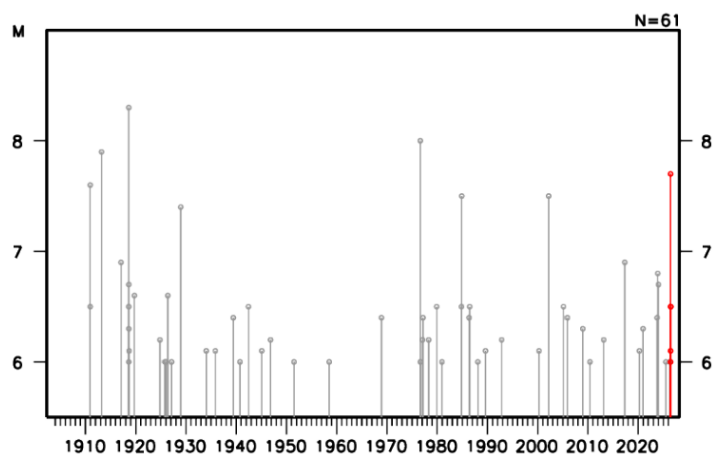


図 2-9 図 2-7 の領域 d 内の M-T 図

(注4) 震源要素は、2021 年までは ISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12 (1904-2021)、2022 年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2026 年 6 月 30 日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震のうち、1976 年 8 月 17 日及び 1984 年 11 月 20 日並びに 2002 年 3 月 6 日の地震の Mw 及び発震機構は Global CMT による。2026 年 6 月 8 日の地震の Mw 及び発震機構は気象庁による。被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置は Bird (2003) *1 より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

(3) 津波

この地震により、小笠原諸島の父島二見で最大17cmの津波を観測したほか、伊豆諸島、小笠原諸島及び千葉県から沖縄県にかけての太平洋沿岸で津波を観測した。なお、気象庁はこの地震に対して、6月8日09時05分に茨城県から沖縄県にかけての太平洋沿岸、伊豆諸島及び小笠原諸島に津波注意報を発表した。その後、16時50分に津波注意報を解除した。津波観測値(暫定値)は表3-1のとおり。

表3-1 津波観測値(2026年6月8日、暫定値)

都道府県	観測点名	所属	第一波			最大波			
			到達時刻			発現時刻			高さ[cm]
			日	時	分	日	時	分	
千葉県	館山市布良	気象庁	8	-	-	8	18	06	7
東京都	父島二見	気象庁	8	12	-	8	17	24	17
	三宅島阿古	海上保安庁	8	-	-	8	14	58	6
静岡県	下田港	国土交通省港湾局	8	-	-	8	18	41	11
	南伊豆町手石港	気象庁	8	-	-	8	20	28	7
	御前崎	気象庁	8	-	-	8	18	26	9
愛知県	田原市赤羽根	気象庁	8	-	-	8	21	00	10
三重県	鳥羽	気象庁	8	-	-	8	18	14	8
	尾鷲	気象庁	8	13	-	8	17	22	9
	熊野市遊木	気象庁	8	13	-	8	16	02	7
和歌山県	那智勝浦町浦神	気象庁	8	13	12	8	21	38	6
	串本町袋港	気象庁	8	13	09	8	14	12	16
徳島県	徳島由岐	気象庁	8	13	-	8	18	11	13
高知県	室戸市室戸岬	気象庁	8	-	-	8	16	04	7
	高知	気象庁	8	13	-	8	18	23	4
宮崎県	日向市細島	宮崎県	8	-	-	8	16	51	4
	宮崎港	国土交通省港湾局	8	-	-	8	16	48	11
	日南市油津	気象庁	8	-	-	8	15	17	8
鹿児島県	志布志港	国土交通省港湾局	8	-	-	8	22	27	10
	種子島西之表	海上保安庁	8	-	-	8	20	35	10
	種子島熊野	気象庁	8	-	-	8	18	32	13
	奄美市小湊	気象庁	8	-	-	8	16	31	9
沖縄県	沖縄市中城湾港	内閣府	8	-	-	8	15	52	5
	南城市安座真	国土地理院	8	-	-	8	18	04	4
	宮古島平良	内閣府	8	-	-	8	15	02	4
	石垣島石垣港	気象庁	8	-	-	8	14	34	4

- は値が決定できないことを示す。

観測値は、所属機関の観測波形データをもとに気象庁が検出した値。精査により変更される場合がある。

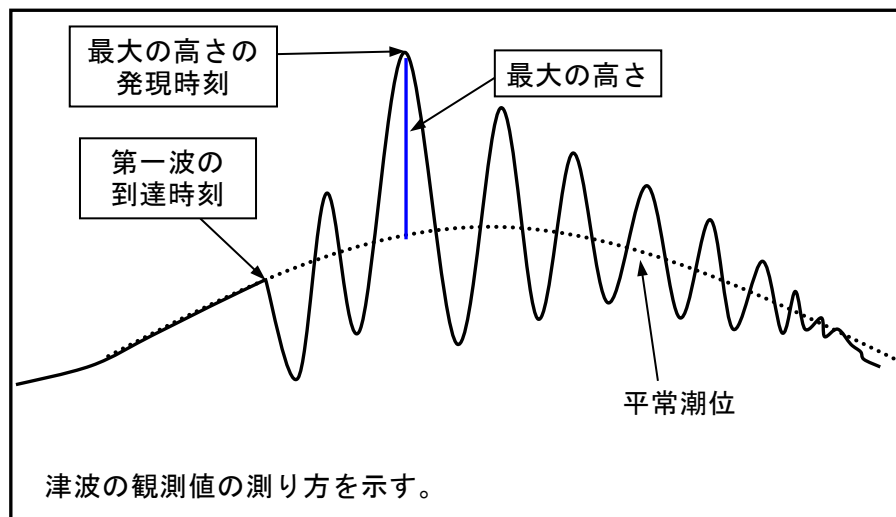


図 3 - 1 津波の測り方の模式

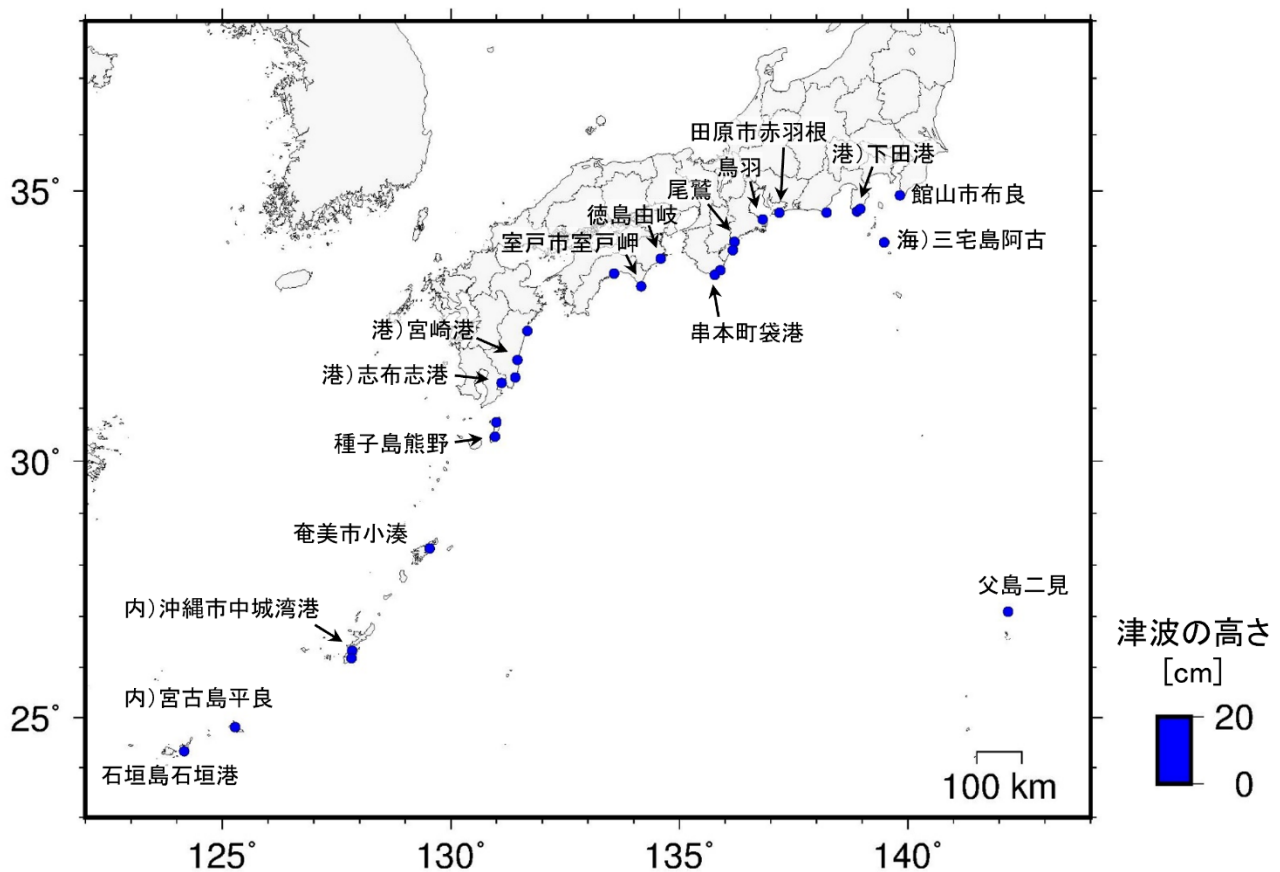


図 3 - 2 津波を観測した地点

内) は内閣府、港)は国土交通省港湾局、海)は海上保安庁の所属であることを示す。